

平成21年度(3)

県政モニター アンケート報告書

テーマ「あいちの健康福祉」
「あいちの教育の推進」

平成21年11月

も く じ

調査の概要	1
-------------	---

調査結果

あいちの健康福祉

1 健康福祉全般	3
2 高齢者・地域福祉	5
3 障害者福祉	8
4 救急医療	11
5 役割分担	12
6 費用負担	14
7 自由意見	15

あいちの教育の推進

1 「あいちの教育に関するアクションプラン」について	20
2 家庭について	22
3 地域について	24
4 学校について	25
5 不安定な状態にある若者について	27
6 教育全般	30
7 自由意見	32

質問と回答	39
-------------	----

調査の概要

調査のテーマ

あいちの健康福祉

(調査の趣旨)

本県では、障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが、家庭や地域の中で、安心してその人らしい生活が送れるよう、平成13年3月に、福祉の総合計画である「21世紀あいち福祉ビジョン」を策定し、県民の皆様のご理解とご協力を得ながら、福祉の増進を図ってきました。

この間、少子高齢化の一層の進行や、地域社会のつながりの希薄化、救急医療、産科医療の確保など、福祉や医療に関する環境の変化や新たな課題が顕在化してきています。こうした状況に対応し、地域で支えあう、安全で安心できる社会を構築するため、本県では、新しい健康福祉分野の中長期ビジョンの策定を予定しています。

そこで、「あいちの健康福祉」に関する県民の皆様のご意向などを把握するため、福祉や医療の今後の施策展開について、県政モニターの皆様のご意見をお聞きしました。

あいちの教育の推進

(調査の趣旨)

愛知県教育委員会では、社会の動向や、複雑かつ多様化している教育を巡る課題を踏まえながら、「あいちの教育に関するアクションプラン」を、平成19年4月に策定しました。このプランは、教育委員会だけではなく、知事部局や警察も一体となった、本県初の教育に関する総合的なプランです。また、教育を取り巻く様々な問題を解決するには、学校だけではなく、家庭や地域がそれぞれ手を取り合って協力して取り組むことが重要であるとして、家庭・地域・学校の協働による教育の推進を基本としております。

なお、このプランは平成19年4月に策定されましたが、目標年度が平成22年度までとなっていることから、現在次のプランづくりに向けた作業を行っております。

そこで、新しい「あいちの教育に関するアクションプラン」を策定するに当たり、県民の皆様のご意見を反映させる取組の一つとして、「あいちの教育の推進」をテーマに県政モニターの皆様にご意見をおうかがいしました。

調査対象

県政モニター 497人 (平成21年8月18日現在)

内訳

区 分	計		名古屋地域	尾張地域	三河地域	
	人 員	構 成 比				
総 数	497人	100.0%	152人	189人	156人	
性 別	男 性	243	48.9	74	93	76
	女 性	254	51.1	78	96	80
年 代 別	20 代	73	14.7	22	30	21
	30 代	106	21.3	31	42	33
	40 代	88	17.7	23	32	33
	50 代	86	17.3	25	30	31
	60 代 以上	144	29.0	51	55	38

調査期間

平成21年8月18日から平成21年8月30日まで

調査方法

郵送・インターネット (選択)

回答者数

489人 (回収率98.4%)

記号・符号・用語の説明

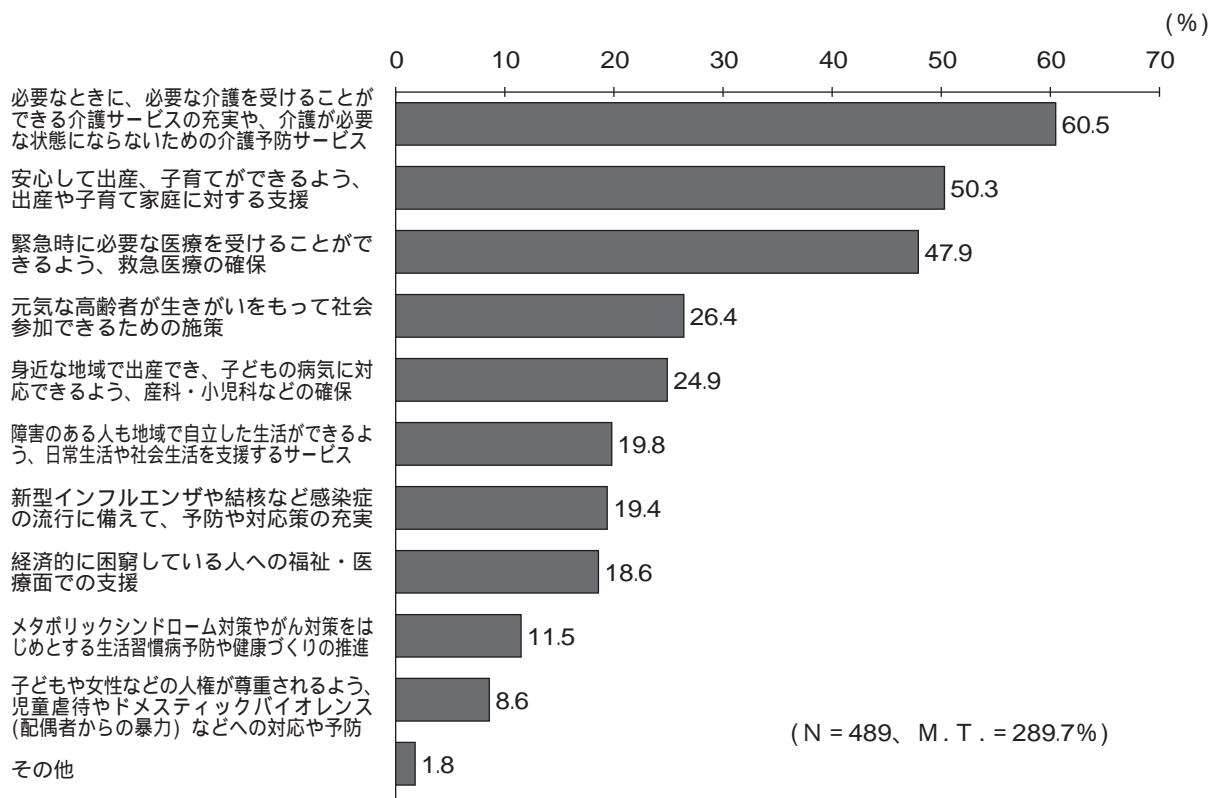
- (1) N (Number of Cases の略) は比例算出の基数であり、100%が何人の回答者に相当するかを示す。
- (2) M.T. (Multiple Total) は複数回答を認める質問に対する回答の比率の合計を示す。(無回答者の数値は含まない。)
- (3) 回答が1つの質問であっても、小数第2位を四捨五入して割合を求めているため、合計が100%にならないことがある。

調査結果

あいちの健康福祉

1 健康福祉全般

問1 現在や将来の生活に、福祉や医療の面で様々な不安があると思いますが、今後どのような施策を充実させていくべきだと思いますか。(回答は3つ以内)

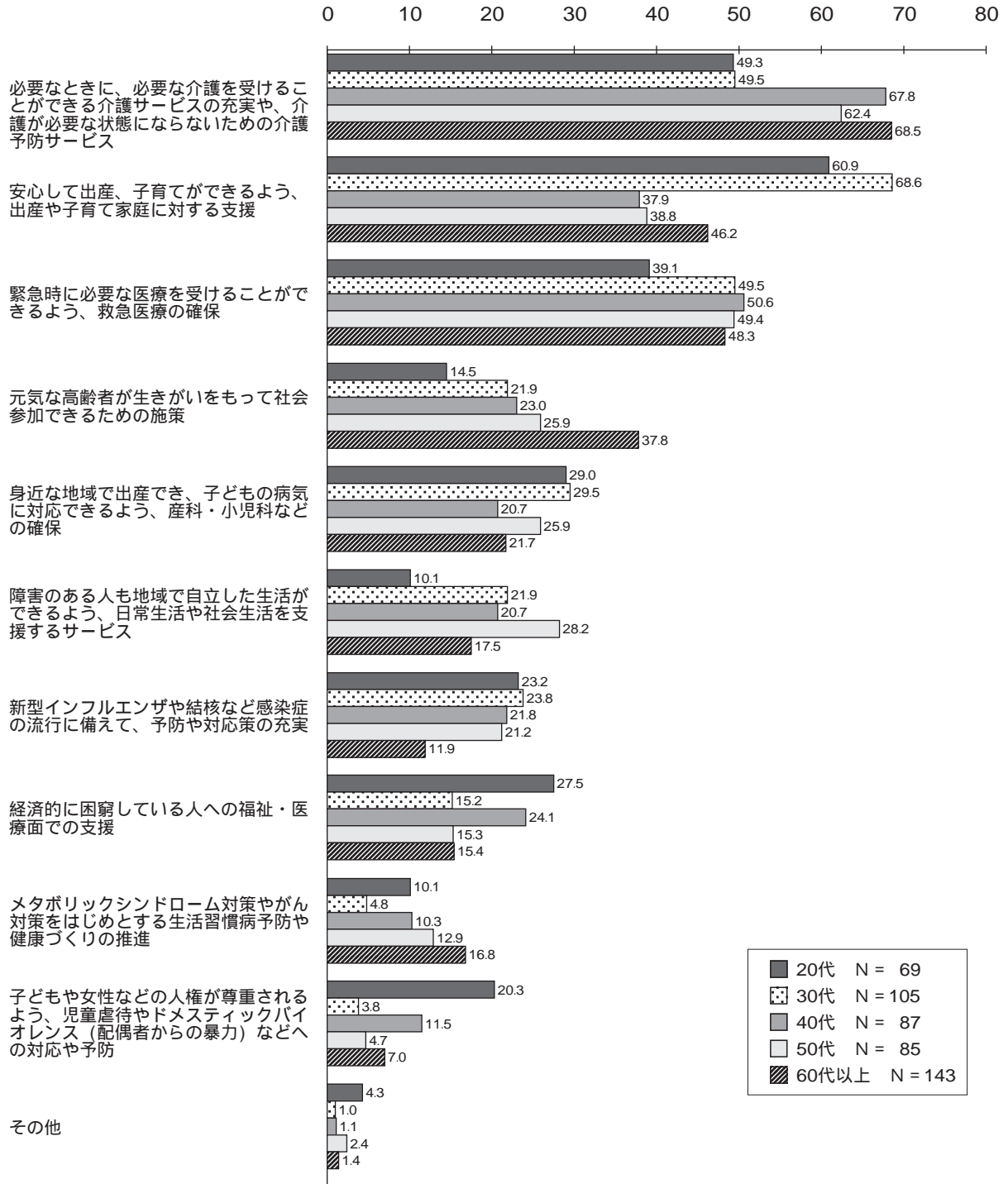


福祉や医療について、今後どのような施策を充実させていくべきかを尋ねたところ、「必要なときに、必要な介護を受けることができる介護サービスの充実や、介護が必要な状態にならないための介護予防サービス」が60.5%、「安心して出産、子育てができるよう、出産や子育て家庭に対する支援」が50.3%、「緊急時に必要な医療を受けることができるよう、救急医療の確保」が47.9%などとなっている。

年代別にみると、20代、30代では「安心して出産、子育てができるよう、出産や子育て家庭に対する支援」と答えた人の割合が最も高く、40代、50代、60代以上では「必要なときに、必要な介護を受けることができる介護サービスの充実や、介護が必要な状態にならないための介護予防サービス」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)

(%)



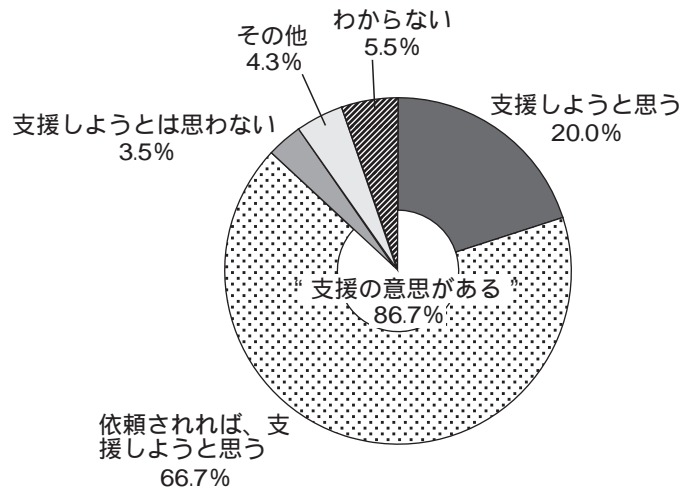
本年度第1回のモニターアンケートで「力を入れていくべき行政分野」をお尋ねした質問に対する回答では、「少子・高齢化対策」「保健医療」「社会福祉」と、健康福祉に関する項目が上位を占めましたが、今回の設問では、健康福祉分野で充実させていくべき分野をお尋ねしたものです。「介護」「出産・子育て」「救急医療」に関する項目が全世代を通じて、上位3項目となっていますが、年代別に見ると、20代、30代では「出産・子育て」に関する項目が60%以上となっている一方、40代以上では「介護」に関する項目が60%以上となっており、各世代に応じた健康福祉施策が必要であることが確認されました。

すべてのライフステージを通じて、安心して生活できるよう、今後とも、健康福祉施策の推進に努めてまいります。
(健康福祉部医療福祉計画課)

2 高齢者・地域福祉

問2 (1) 今後、高齢化の進展に伴い、高齢者夫婦のみの世帯や、一人暮らしの高齢者が増加すると見込まれています。こうした高齢者が地域で生活をしていくためには、ゴミ出しや電球の交換、買い物の手助けといったような日常的な支援が必要な場合がありますが、こうした支援は、公的な福祉サービスだけでは対応が難しく、地域の住民間の支えあいが必要だといわれています。あなたは、こうした支援をすることについてどう思いますか。(回答は1つ)

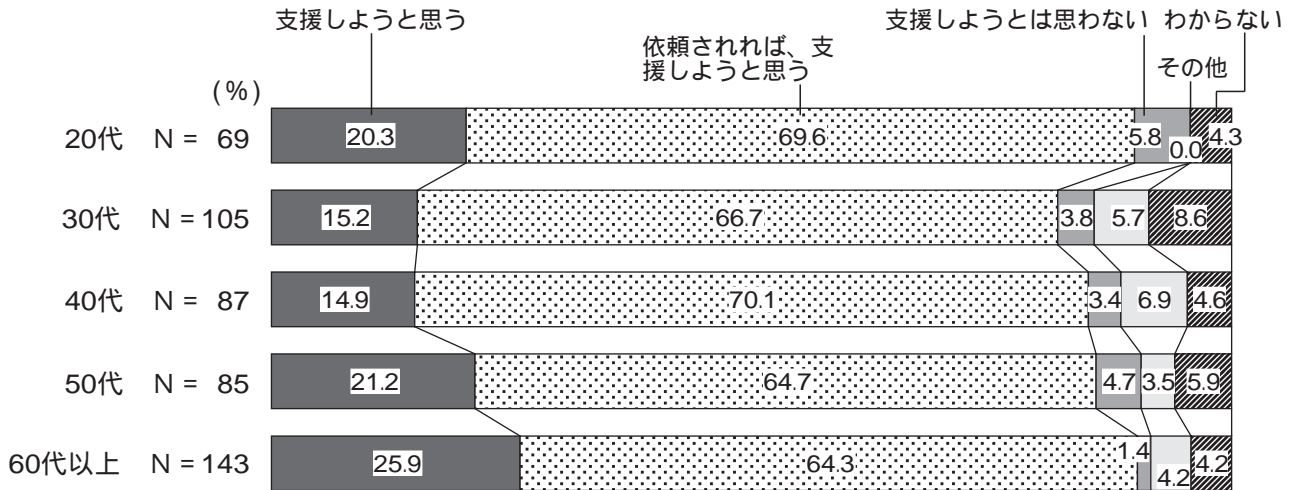
N = 489



高齢者夫婦のみの世帯や、一人暮らしの高齢者を地域住民の支えあいで支援することについて、どう思うかを尋ねたところ、「支援しようと思う」が20.0%、「依頼されれば、支援しようと思う」が66.7%で、これらを合わせた“支援の意思がある”が86.7%に対し、「支援しようと思わない」は3.5%となっている。

年代別にみると、各年代ともに80%以上が“支援の意思がある”と答えており、60代以上が90.2%、20代が89.9%と高くなっている。

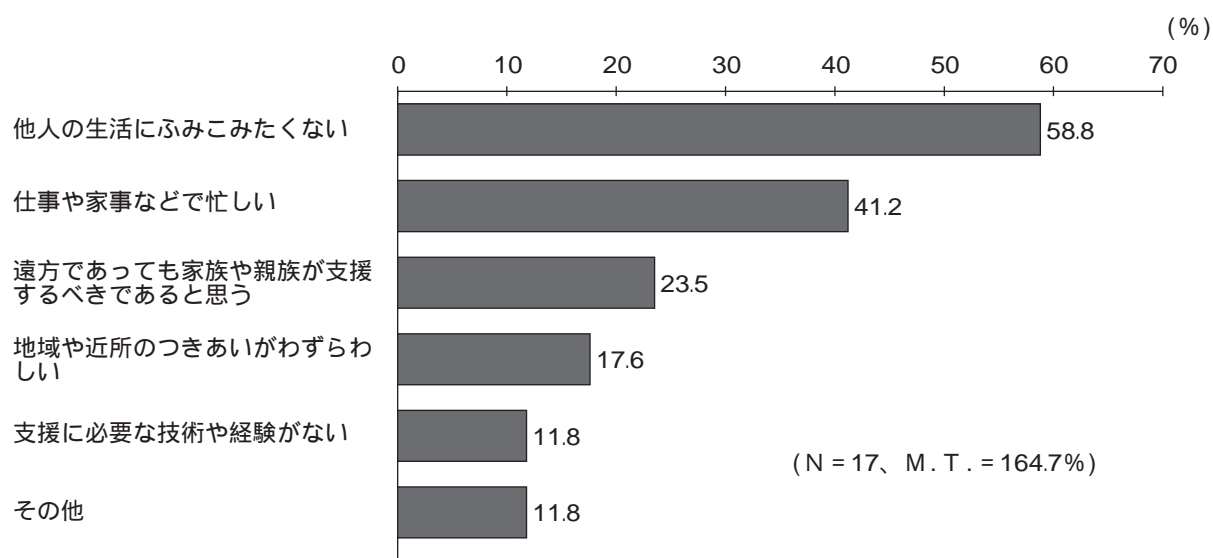
(年代別)



「支援しようと思う」と「依頼されれば、支援しようと思う」をあわせ86.7%と、身近な地域における住民間の支援への意識が高いものであることが分かりました。年代別に見ると、60代以上で積極的に支援しようと思う方の割合が高く、地域における住民間の支え合いにおいて、大きな力となることが期待されます。

(健康福祉部医療福祉計画課)

問 2 (2) 『問 2 (1)で「3 支援しようとは思わない』と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。(回答は2つ以内)

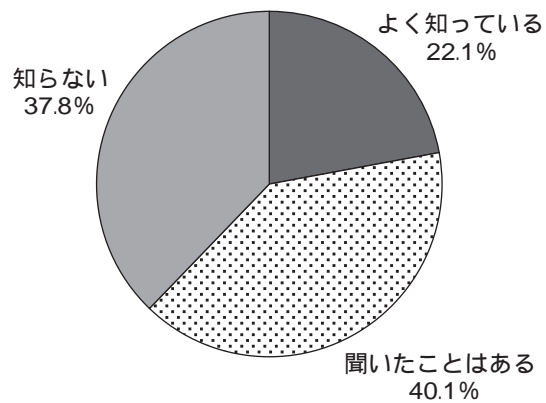


『問 2 (1)で「3 支援しようとは思わない』と答えた人に、その理由を尋ねたところ、「他人の生活にふみこみたくない」が58.8%、「仕事や家事などで忙しい」が41.2%、「遠方であっても家族や親族が支援するべきであると思う」が23.5%などとなっている。

3 障害者福祉

問3 (1) 障害のある方が施設ではなく街の中で暮らせるよう、住まいの場や働く場を身近に確保したり、車椅子を利用される方などが暮らしやすい環境を整えたりするなど、障害のある人もない人も、誰もが地域で普通に生活することのできる社会づくり（いわゆる「ノーマライゼーション」）をご存じですか。（回答は1つ）

N = 489



障害のある人もない人も、誰もが地域で普通に生活することのできる社会づくり（いわゆる「ノーマライゼーション」）について尋ねたところ、「よく知っている」が22.1%、「聞いたことはある」が40.1%であるのに対し、「知らない」は37.8%となっている。

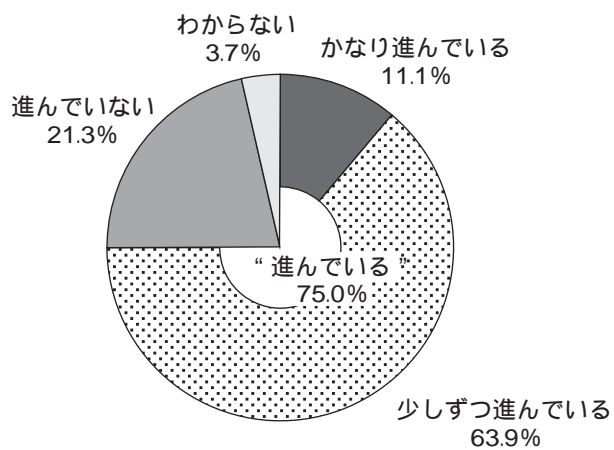
平成9年度にも同様の質問を行っていますが、「よく知っている」17.3% 22.1%、「聞いたことがある」28.0% 40.1%、「知らない」54.0% 37.8%と、ノーマライゼーションの理念が徐々に浸透していることがわかります。

「知らない」と答えた方も、依然37.8%あり、より一層の啓発が必要であると考えます。

（健康福祉部医療福祉計画課）

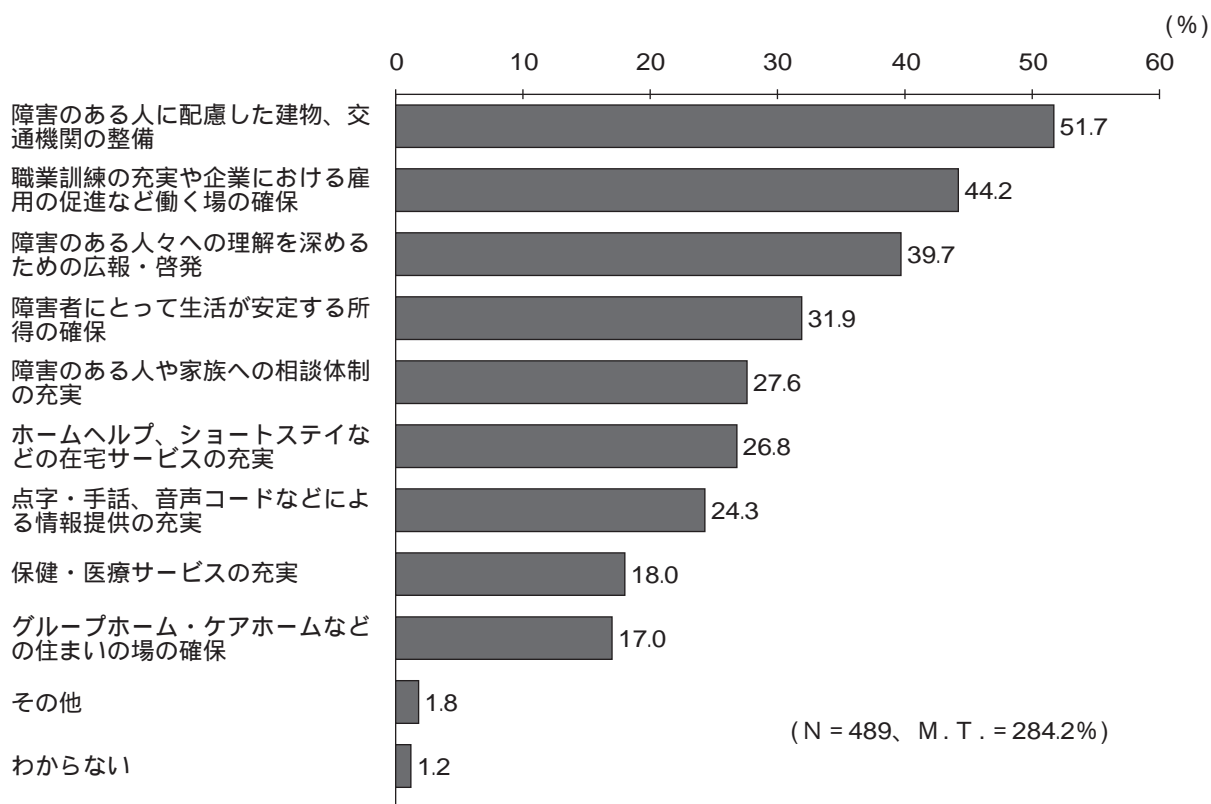
問3 (2) 『問3(1)で「1 よく知っている」と答えた方にお尋ねします。こうした社会づくりは、10年前と比べて進んでいると思いますか。(回答は1つ)

N = 108



『問3(1)で「1 よく知っている」と答えた人に、10年前と比べて進んでいると思うかを尋ねたところ、「かなり進んでいる」が11.1%、「少しずつ進んでいる」が63.9%で、これらを合わせた“進んでいる”が75.0%に対し、「進んでいない」は21.3%となっている。

問4 障害者福祉の分野では、ノーマライゼーションの理念のもと、障害のある人も施設や病院で生活するのではなく、まちの中で普通に生活を送ることが目指されています。そのために、どんなことが重要になると思いますか。(回答は3つ以内)



(ホームヘルプ)

障害のある方の家庭にヘルパーを派遣し、入浴や排せつ、着替え等の介助や、調理や洗濯、掃除など生活の援助を行うサービス

(ショートステイ)

家族の急な病気や冠婚葬祭などにより一時的に介護ができない場合、あるいは家族の負担を軽くするために、短期間施設に入所し介護を受けることができるサービス

(音声コード)

18mm四方の切手サイズの二次元バーコードを利用したもので、専用の読取機で読み取ると、印刷された文字情報が音声で読み上げられる。印刷物に添付することにより、視覚障害のある方への情報提供が可能となる。

(グループホーム・ケアホーム)

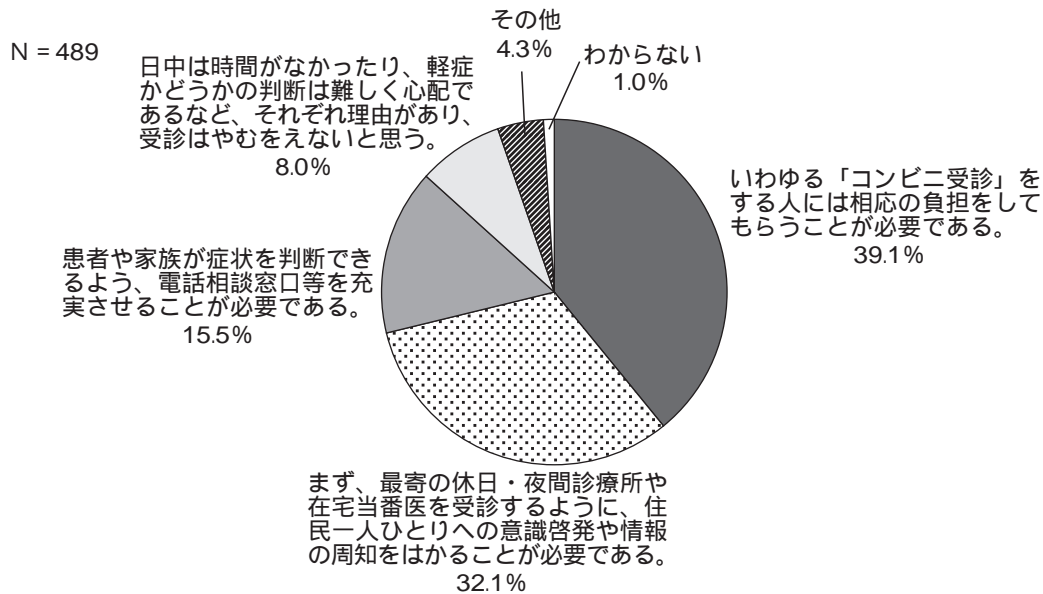
障害のある人が、スタッフの援助や介護を受けながら、家庭的な環境の中で、少人数で共同生活を送る場所

障害のある人もまちの中で普通に生活を送るために、どんなことが重要になるかを尋ねたところ、「障害のある人に配慮した建物、交通機関の整備」が51.7%、「職業訓練の充実や企業における雇用の促進など働く場の確保」が44.2%、「障害のある人々への理解を深めるための広報・啓発」が39.7%などとなっている。

「建物、交通機関の整備」「働く場の確保」「広報・啓発」に関する項目が、上位を占めていますが、それ以外の様々な施策にも比較的回答が分散しており、障害のある人の地域生活に関しては、幅広い分野でのきめ細かな施策が求められているものと考えます。(健康福祉部医療福祉計画課)

4 救急医療

問5 「日中、仕事で行けないから」「夜のほうが空いているから」などの理由で、安易に夜間の救急医療を利用する人が増えていることが指摘されています。こうした状況は「コンビニ受診」とも言われ、その結果、救急車で搬送された重症患者への対応が困難になる恐れも指摘されていますが、これについてどう思いますか。(回答は1つ)



安易に夜間の救急医療を利用する「コンビニ受診」について、どう思うかを尋ねたところ、「いわゆる『コンビニ受診』をする人には相応の負担をしてもらうことが必要である」が39.1%、「まず、最寄の休日・夜間診療所や在宅当番医を受診するように、住民一人ひとりへの意識啓発や情報の周知をはかることが必要である」が32.1%、「患者や家族が症状を判断できるよう、電話相談窓口等を充実させることが必要である」が15.5%などとなっている。

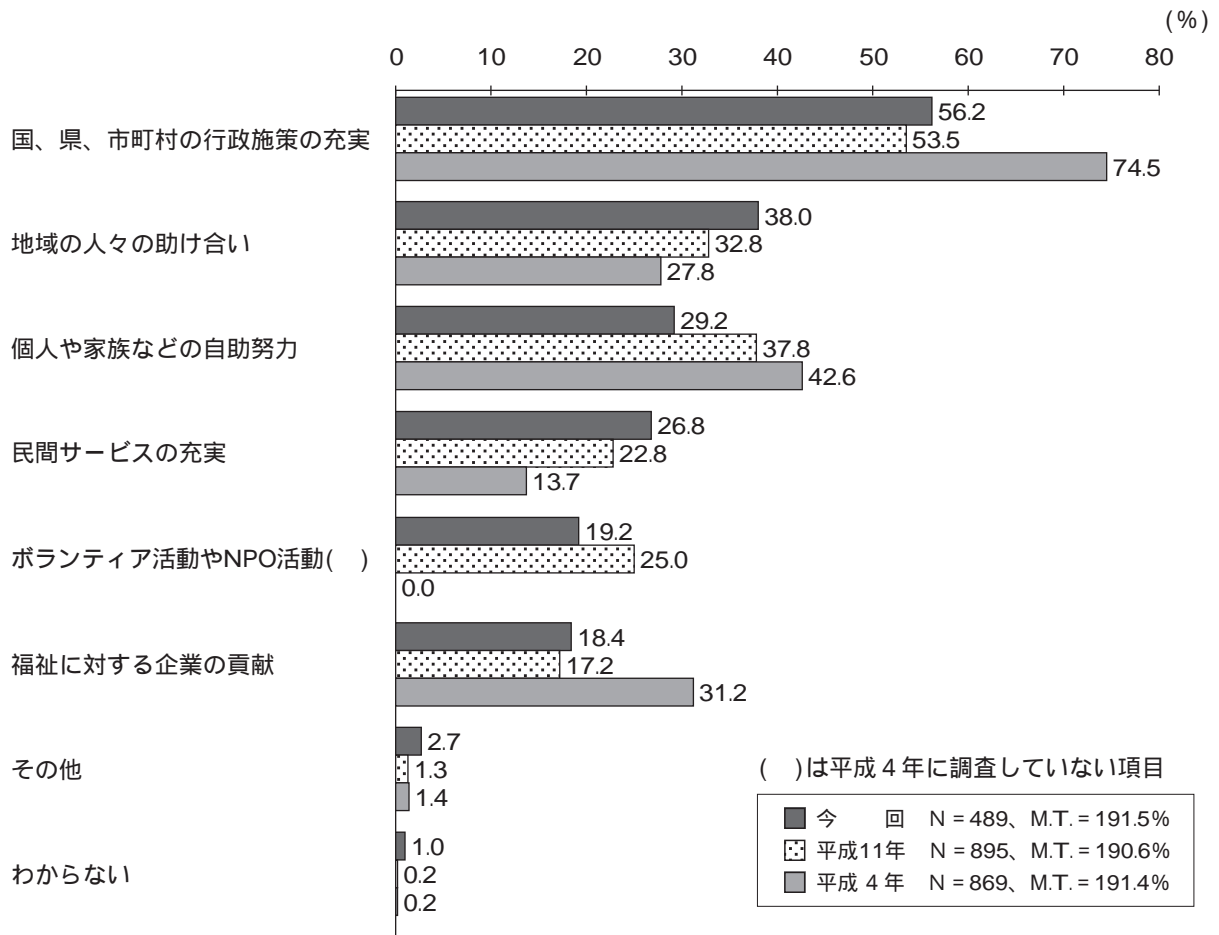
「相応の負担をしてもらう必要がある」「啓発や周知が必要である」「電話相談窓口等の充実が必要である」と、コンビニ受診についての対策の充実を求める項目があわせて86.7%になっています。また、自由記載意見でも、コンビニ受診や救急医療に関する意見が多く、救急医療に対する関心の高さがうかがえます。

県としても、救急医療の確保に努めてまいります。

(健康福祉部医療福祉計画課)

5 役割分担

問6 今後、福祉サービスの需要が増大すると思われませんが、そうした中で特に重要となってくることは次のうち何だと思えますか。(回答は2つ以内)



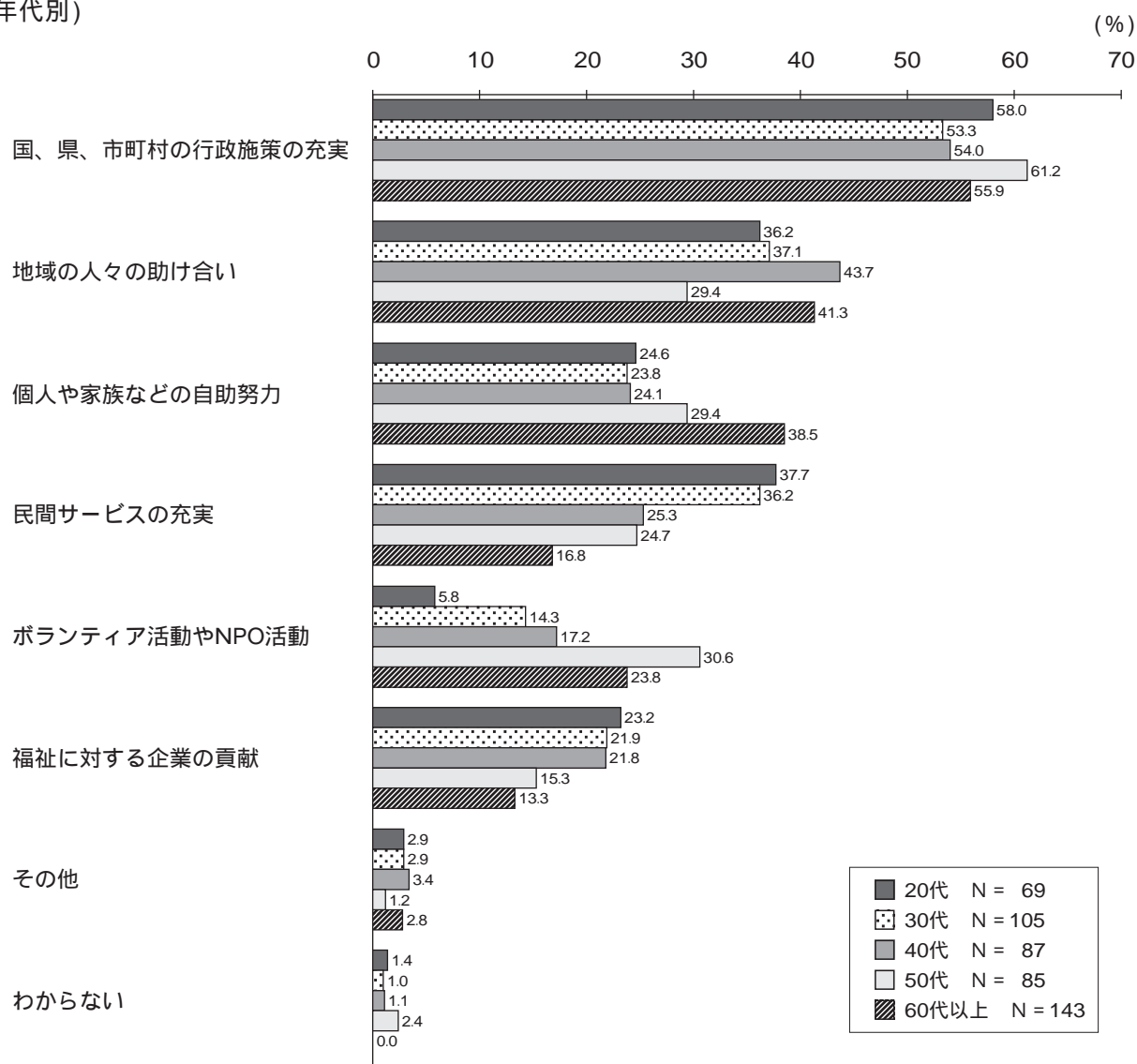
今後、福祉サービスの需要が増大すると思われるが、特に重要となってくることは何かを尋ねたところ、「国、県、市町村の行政施策の充実」が56.2%、「地域の人々の助け合い」が38.0%、「個人や家族などの自助努力」が29.2%、「民間サービスの充実」が26.8%などとなっている。

年代別にみると、どの年代も「国、県、市町村の行政施策の充実」と答えた人の割合が最も高くなっているが、次いで答えた人の割合が高いのは、20代で「民間サービスの充実」、30代、40代、60代以上で「地域の人々の助け合い」、50代で「ボランティア活動やNPO活動」となっている。

【平成11年、平成4年調査との比較】

平成11年、平成4年の調査結果と比較してみると、「国、県、市町村の行政施策の充実」と答えた人の割合が引き続き最も高くなっている。

(年代別)



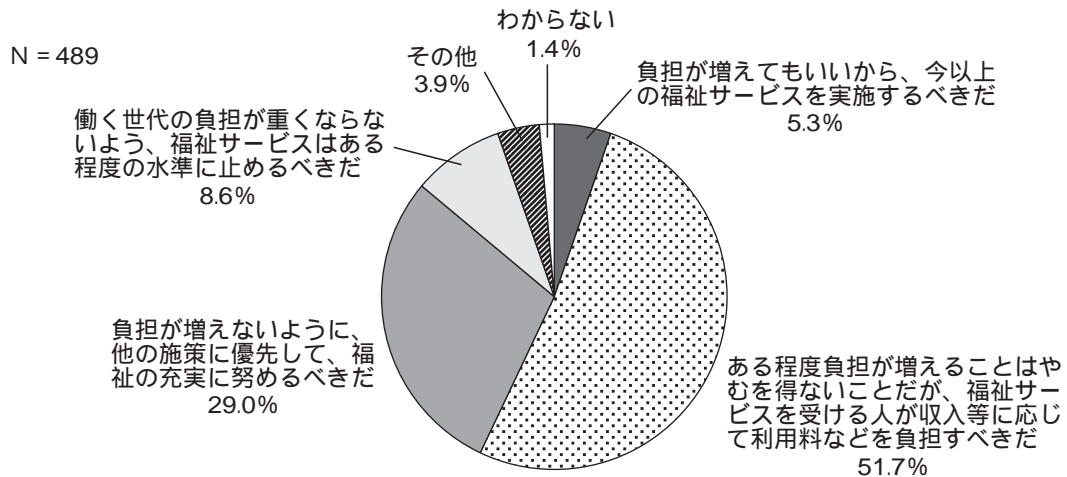
平成11年度等にも同様の質問を行っております。「行政施策の充実」や「自助努力」が減少にある一方、「地域の人々の助け合い」や「民間サービスの充実」については増加傾向にあり、今回の調査では「地域の人々の助け合い」が、2番目に多い回答となっています。

問2における住民間の支え合いの意識の高さもふまえ、今後は地域の支え合いの仕組みづくりに取り組むことが重要であると考えます。

(健康福祉部医療福祉計画課)

6 費用負担

問7 少子・高齢社会の進行に伴い、これからの福祉サービスを充実していくためには相応の経費が必要となり、税金や社会保険料などの負担が増加することが考えられますが、次のうちあなたの考えはどれに近いですか。(回答は1つ)



少子・高齢社会の進行で、福祉サービスの充実には税金や社会保険料などの負担が増加すると考えられることについて尋ねたところ、「ある程度負担が増えることはやむを得ないことだが、福祉サービスを受ける人が収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」が51.7%、「負担が増えないように、他の施策に優先して、福祉の充実に努めるべきだ」が29.0%、「働く世代の負担が重くならないよう、福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ」が8.6%などとなっている。

平成9年度、11年度にも同様の質問を行っておりますが、今回も含め一貫して、「ある程度負担が増えることはやむを得ないことだが、福祉サービスを受ける人が収入等に応じて利用料などを負担すべきだ」が、約50%を占めています。また、他の項目の割合も、大きな変化は認められません。

自由記載意見でも、税金や社会保険料の負担に関する意見が多く、負担増を容認するご意見、負担増には否定的なご意見のいずれも多くあり、費用負担についての関心が高い方が多いことが分かります。

県としては、限られた財源を有効に活用し、健康福祉行政の充実に努めてまいります。

(健康福祉部医療福祉計画課)

7 自由意見

問8 今後の福祉・医療についてご意見・ご提案がありましたら記入してください。

福祉・医療について、自由に意見を記入していただいたところ、316件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 出産・子育て	31
(2) 高齢者介護	17
(3) 障害者福祉	14
(4) 地域福祉	19
(5) 健康づくり	10
(6) 医療・医療費	65
(7) 福祉や医療に携わる人材	16
(8) 費用負担・財政	54
(9) 全般	62
(10) その他	28
合 計	316

(1) 出産・子育て

子どもの医療費が無料で助かっている。無料の対象を拡大してほしい。

子ども医療費の負担が、市町村によって違うので、全自治体で同じように対応できるようにしてほしい。

子どもの医療費が無料になってきているが、入院は無料でも、外来については多少なりとも負担をさせるべきである。

地域でお産のできる病院がなくなってしまい、安心してお産ができない。

産みたくても産めない人がいるので、産婦人科の充実や不妊治療の支援等、今まで以上に対策が必要である。

産科医師の確保と労働条件を改善してほしい。

少子化対策に、重点的に予算を分配すべき。

子ども手当や出産手当、子どもの医療費無料化といった経済的支援が必要である。

児童手当などは、小さい子どもがいる家庭よりも、中学生以上の子どもがいる家庭に支給したほうがよい。

働く親が子育てしやすい環境を整える必要がある。
結婚しない人も多いので、それを解決する必要がある。

(2) 高齢者介護

特別養護老人ホーム等への入居を希望しても入居できない人が多く、それを解消することが優先である。

家庭内の介護には限界があるので、施設をもっと増やしてほしい。

家族で介護の負担は大きく、介護者が病気になってしまう。介護をしている世帯への助成や支援が必要である。

育児休暇のように介護休暇を取れることが必要である。

高齢者自身が施設入所を選ぶことは、家族に見放されることではなく、自分の生き方を選ぶことであると考えられるよう、若いときから啓蒙することが必要である。

高齢者が高齢者を介護するケースが多くなっているので、相談窓口や地域の協力が必要である。

(3) 障害者福祉

障害のある人が、一人で生活できるよう仕事や所得を確保できるようになってほしい。

障害のある人が安心して働くためには、企業の協力が必ず必要となる。

障害者用駐車場の利用のルールが守られていないので、何らかのペナルティを課すことも必要ではないかと思う。

身体障害のある人への支援だけでなく、知的障害がある人にも多くの支援を願う。

障害のある人の保護者の「親亡き後」の不安が大きくなっているように思う。

「将来の安心」という点からすると、民間任せでは厳しいのではないか。

(4) 地域福祉

地域の間人関係が希薄になり地域での助け合いは難しいので、行政に地域を組織化できるような取組を立案してほしい。

退職後の健康な高齢者が、気軽に地域社会やボランティアに参加できるしくみや受け皿を作してほしい。

高齢者のみの世帯には、自治会や老人会、民生委員などが定期的に訪問して困っていることなどを行政に伝えるような地域との協力や連携が大切である。

一人暮らしの高齢者の買い物や通院など、足の確保が重要である。

空き教室などを利用して、地域で高齢者や子どもをみるシステムがあるとよい。
地域での連携の強化が必要であるが、声かけなど、日ごろできることから始めてもよい。
介護などのボランティア活動でポイント制度があると、後に、自分や自分の家族の介護の際に
使えてよいと思う。

近所づきあいが希薄となっているので、緊急時にどこまで助けを求めてよいのか不安を感じる。
隣の住民の顔さえ知らないというような現状を変える努力が必要である。

(5) 健康づくり

医療費の増加を抑えるためにも、予防医療の推進や健康づくり活動が必要である。
健康の維持のためには、自分で自分の健康管理に努めることが大切である。
福祉、医療サービスの充実の前に、人々の意識改革が必要である。
食生活見直しの推奨や運動不足解消のための環境づくりも大切である。
中高齢者の健康づくりの活動が、他の府県より劣っていると思う。

(6) 医療・医療費

長期入院や、慢性疾患の場合は医療費が高くなる。状況に応じた負担にしてほしい。
がん患者が長期の通院でも安心して医療を受けられるように、サービスを充実させることが必要
である。

コンビニ受診の増加の一因でもあるので、医療費無料化の見直しが必要である。

医療費の負担は、一般の人にとって不透明な部分が多い。

安価な医薬品の使用や医薬品の適量配布など、医師と患者がよく相談して、無駄を排除する必要
がある。

医療費にどれくらいの税金が使われているのか、広報が必要である。

救急車をタクシー代わりに利用する人が多いと聞く。住民への啓発が必要である。

安易に救急車を利用する人がいるため、有料化を検討すべきである。

高齢者の通院のためのバスを増やしたり、バス代を下げたりしてはどうか。

風邪などの場合には、かかりつけ医や地元の休日診療所を受診するよう住民への啓発が必要であ
る。

休日や夜間に受診できる医療機関が一目で分かるとよい。

土日に診察してくれる医療機関が増えると、救急医療を利用する人が減るのではないか。

コンビニ受診は、勤務医の労働環境を悪化させており、防止策が必要である。

コンビニ医療が患者のニーズなのであれば、積極的に推進してもよいのではないか。

急病の際、たらい回しにされないことがないよう、救急医療の医師と病院を充実させてほしい。

病院勤務医と開業医の所得格差の是正。

開業医と総合病院の連携の強化を望む。

地域の中核病院、特に自治体が運営する病院の機能回復を願う。

入院しても3ヶ月で転院させられるなど、家族の不安や負担が大きい。

医師は患者の立場にたって治療をするべきであるが、反対方向を向いているように感じる。

(7) 福祉や医療に携わる人材

労働環境の悪さを理由に、福祉・医療分野の人手不足はますます増大していくと思う。

介護職の賃金の改善や、地位の向上が必要だと思う。

人員の充実や研修などスキルアップに公的な支援がないと、人材を確保するのが困難である。

利用者に対応していくためのスキルアップやモラルアップが図られているか疑問である。

福祉や医療の現場で働こうと考えている人が夢や希望を持てるようになってほしい。

(8) 費用負担・財政

支出の見直しや、無駄遣いをなくして、福祉の充実に努めるべきである。

負担が増えるのはかまわないが、その前に、税金や保険料の無駄遣いをなくすべきである。

無駄遣いを見直し、優先して福祉や医療に財源をあて、保険料等の負担を軽減してほしい。

容易に負担増をせず、予算内でよりよくできる方法を工夫するべきである。

今以上に、税金や保険料をあげないでほしい。

現在の税や保険料が高いため、負担に感じている。

医療・福祉の充実は望むが、これ以上負担が増えると生活が大変になるので、現状のままで仕方ないと思う。

高齢化が進んでいく中で、医療・福祉の充実のためには、ある程度の負担は必要だと思う。

安心して生活できるよう、負担は少し増えても福祉や医療を充実させてほしい。

収入に応じた負担とするのがよい。特に、低所得者の負担は軽減するべきである。

今後、福祉や医療の拡充が必要となることから、消費税等の税率を上げることも必要だと思う。

(9) 全般

どこでどのようなサービスが受けられるのかについての情報提供が不足していると思う。

福祉も医療もある程度の水準にあると思うが、周知不足のために、県民には十分ではないと思われる可能性が高いと思う。

本当に必要とする人がサービスを受けられるよう、偏りなく公平な福祉であってほしい。

子どもや高齢者への保障を充実させる印象があるが、少数者への目配りも欠かさないでほしい。

はたらき盛り世代にも恩恵を与える制度を考えてほしい。

県内の市町村間、地域間の格差を小さくすることが必要である。

国、県、市町村の役割を明確にすることが必要である。

すべてを行政に頼るのではなく、自分でできることは自分でする努力が必要である。

福祉の事業所や、活動団体への監視の目をしっかりもってほしい。

利用者からの視点で、監査や評価をしてもらいたい。

家族の負担が増大しているので、福祉サービスを利用する本人だけでなく、家族への支援やケアを拡充してほしい。

支援を必要とする人が孤立しないよう、相談体制や地域での連携強化、地域福祉の強化、充実が必要である。

「現役世代が社会全体を養う」現体制は必ず破綻するので、住民間扶助の助成等「自立した共同体づくり」の整備も検討してほしい。

福祉や医療は重要な行政サービスであり、最優先の施策として実施してほしい。

施策が現場とかけ離れていると思う。住民や現場の意見をよく聞いてほしい。

福祉分野においても、善意や無償ボランティアという位置づけではなく、営利を念頭においた活動を検討してもよいのではないか。

弱い人に優しい福祉・医療であってほしい。

将来を見据えた指針をはっきりしてほしい。

(10) その他

車に乗れない高齢者も増えるので、コミュニティバスを増やしてほしい。

就労等の社会参加について情報が足りない。

うつ病が増加しているが、うつ病の人への支援により、自殺者も減るのではないか。

小児リハビリ施設の拡大を希望する。

駅などのエレベータやエスカレータの設置は進んでいると思うが、利用者が少ないところにも、早く設置をしてほしい。

国や県に頼るばかりでなく、住んでいる地域の人との関わりも大切にしたい。

介護している人は忙しく大変なので、手続きをもっと簡単にしてほしい。

人の教育、道徳が、福祉、医療の基盤を作ると思う。

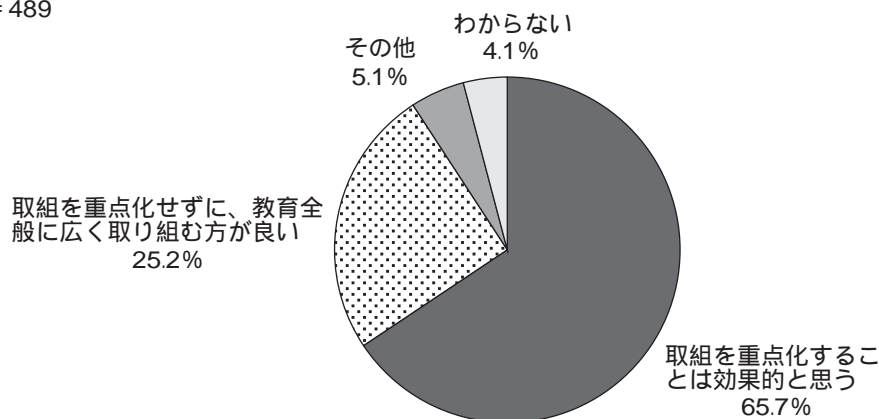
あいちの教育の推進

1 「あいちの教育に関するアクションプラン」について

問9 愛知県教育委員会では、「あいちの教育に関するアクションプラン（平成19年4月）」に基づき、毎年度、家庭や地域、学校で取り組んで欲しいテーマを定め、重点的に取り組んでいます。（19年度は「ノーテレビデー・ノーゲームデー」、20年度は「モラルの向上」、21年度は「情報モラルの向上」）。

教育を取り巻く環境変化を踏まえ、県教育委員会が毎年度テーマを絞って重点的な取り組みを進めていることについて、どのように思いますか。（回答は1つ）

N = 489

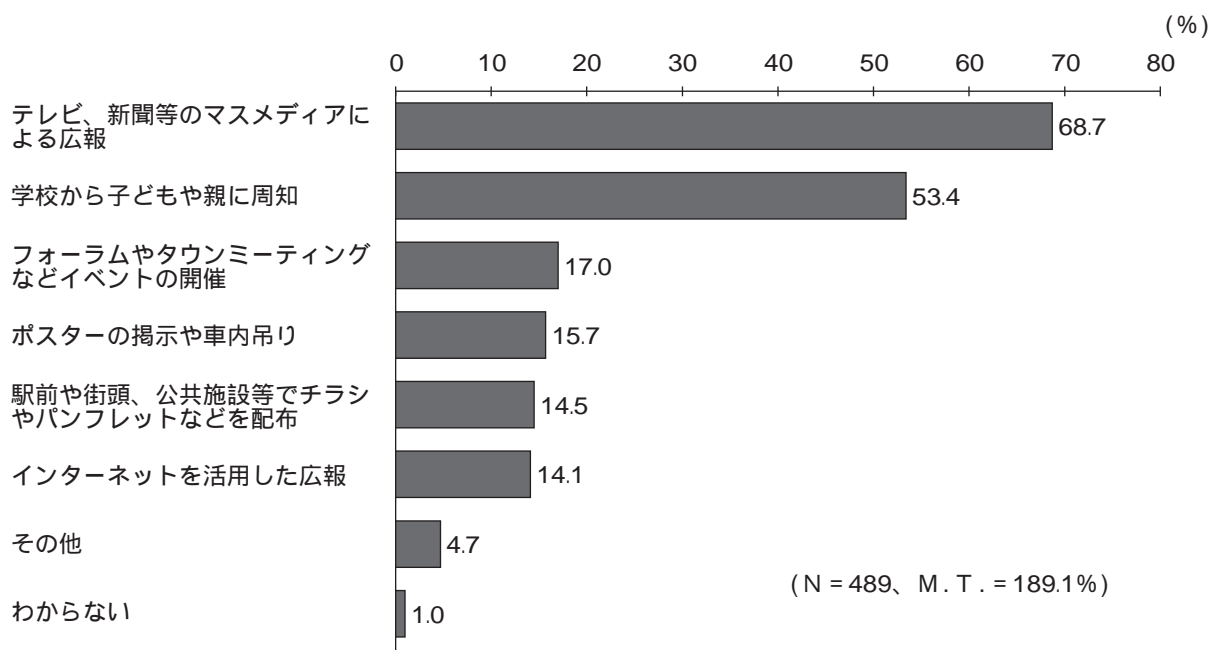


（ テーマを設定していることは知っている 14.6%
テーマを設定していることは知らなかった 76.3% ）

県教育委員会が毎年度テーマを絞って重点的な取り組みを進めていることについて、どう思うかを尋ねたところ、「取組を重点化することは効果的と思う」が65.7%、「取組を重点化せずに、教育全般に広く取り組む方が良い」が25.2%となっている。

なお、県教育委員会が毎年度テーマを設定していることについては、「知っている」が14.6%、「知らなかった」が76.3%となっている。

問10 「あいちの教育に関するアクションプラン」に基づく取り組みが多くの人に伝わるには、どのようにしたらよいと思いますか。(回答は2つ以内)



「あいちの教育に関するアクションプラン」に基づく取り組みが多くの人に伝わるには、どのようにしたらよいと思うかを尋ねたところ、「テレビ、新聞等のマスメディアによる広報」が68.7%、「学校から子どもや親に周知」が53.4%などとなっている。

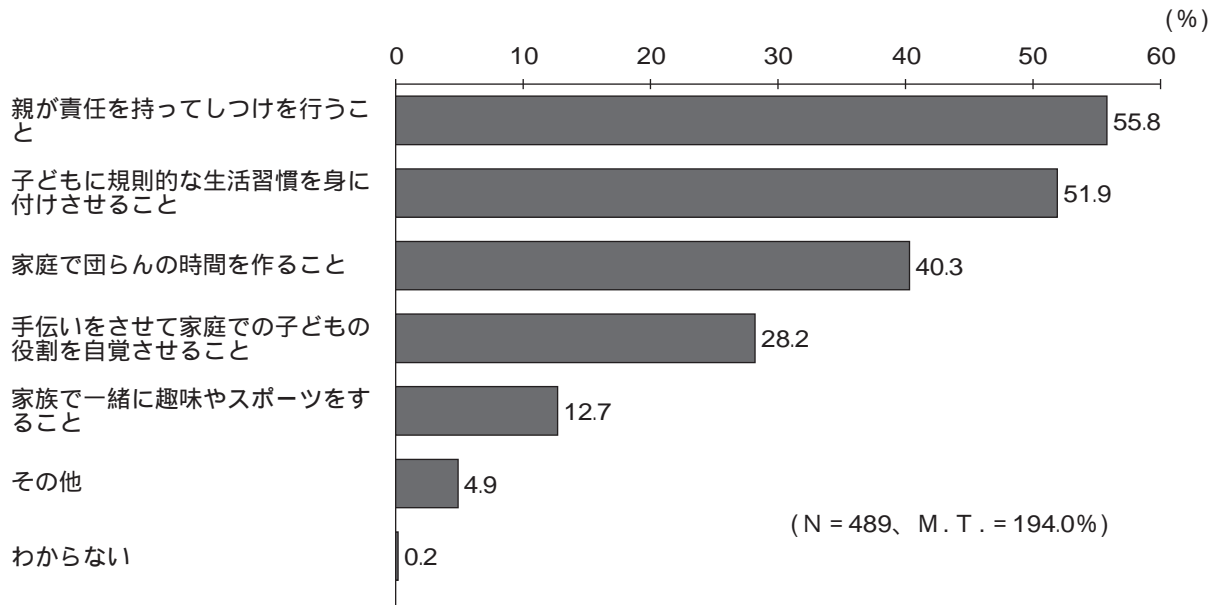
「あいちの教育に関するアクションプラン」の中でテーマを定め重点的に取り組んでいることに対して、認知度が低いことが問9でわかりました。問10の回答を参考にして、愛知県教育委員会の取組を、もっとメディアによる広報を工夫して、県民のみなさんに知っていただく努力をしていきたいと思えます。

なお、問10で半数以上の方が「学校から子どもや親に周知する」を選択されましたが、今年度、愛知県教育委員会では、重点的なテーマである「情報モラルの向上」について啓発する広報紙やパンフレットを、教員が直接保護者へ手渡すよう考えております。(教育委員会総務課教育企画室)

2 家庭について

問11 教育の基本は家庭教育ですが、近年、家庭の教育力が低下していると言われています。子どもたちを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。

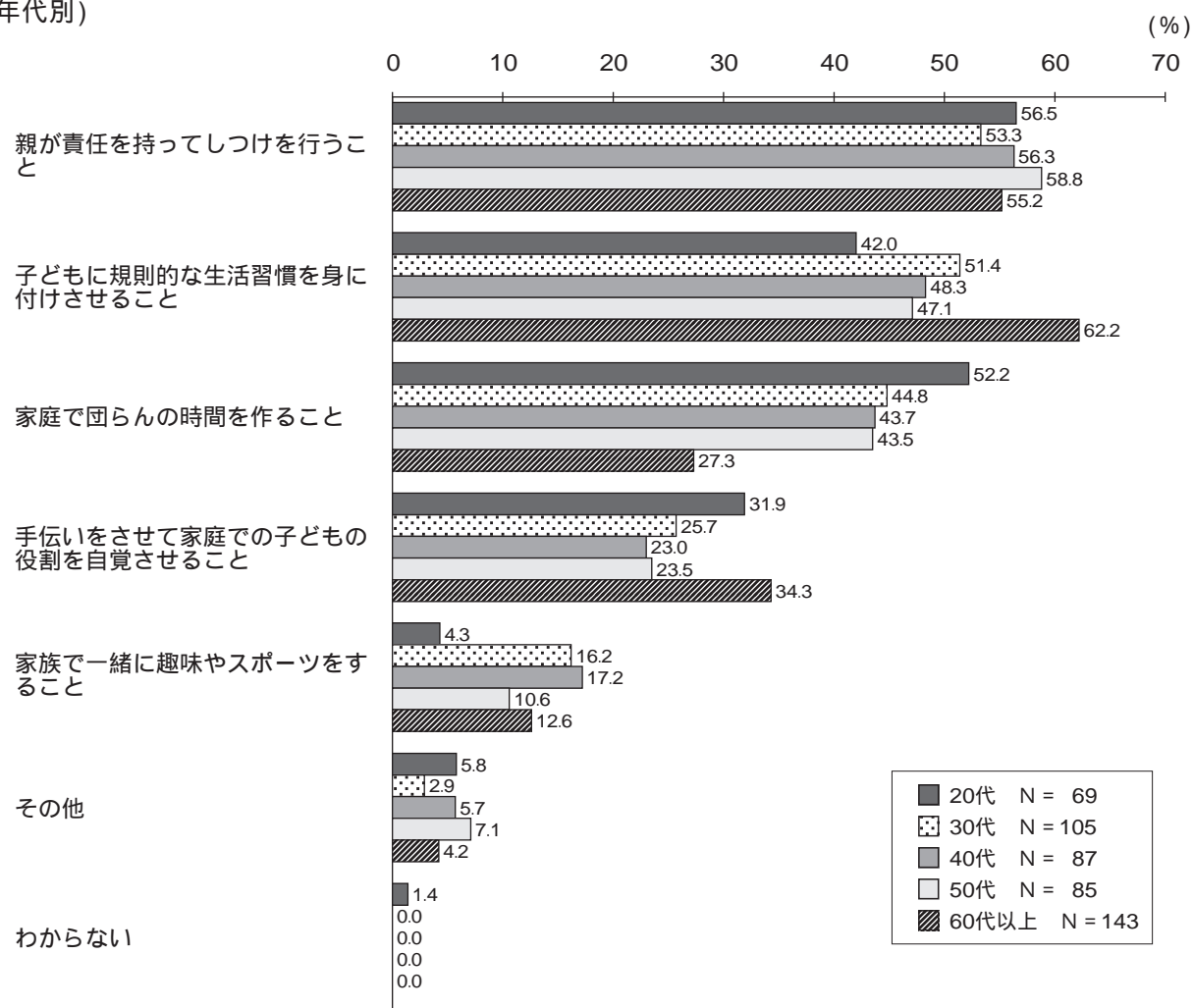
(回答は2つ以内)



子どもたちを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要と思うかを尋ねたところ、「親が責任を持ってしつけを行うこと」が55.8%、「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること」が51.9%、「家庭で団らんの時間を作ること」が40.3%などとなっている。

年代別にみると、20代から50代までは「親が責任を持ってしつけを行うこと」と答えた人の割合が最も高くなっているが、60代以上では「子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること」と答えた人の割合が62.2%と最も高くなっている。

(年代別)



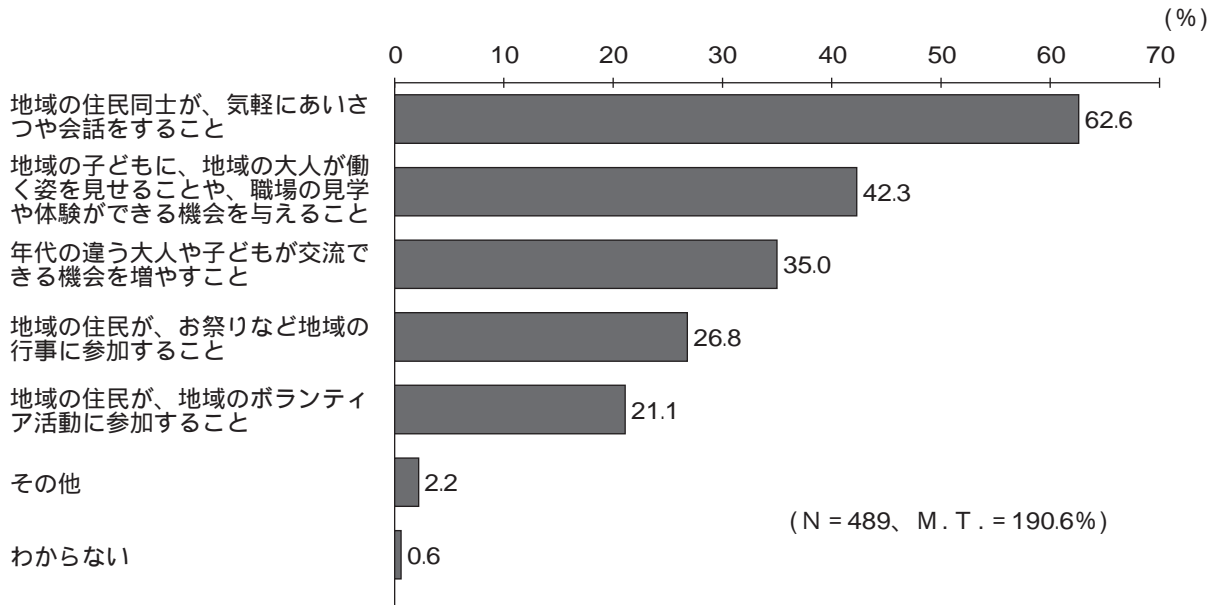
「しつけを行うこと」や「生活習慣を身に付けさせること」について、半数以上の方が家庭の役割として重要であると回答していることから、ルールやマナーを身に付けさせることは家庭が中心であると考えている方が多いことがわかります。

特に、しつけについては、どの年代でも半数以上の方が家庭の役割として重要であると回答しており、しつけは親の責任であると考えている方が特に多いことがわかります。

(教育委員会総務課教育企画室)

3 地域について

問12 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせませんが、地域では、特にどのような取組が重要だと思いますか。(回答は2つ以内)

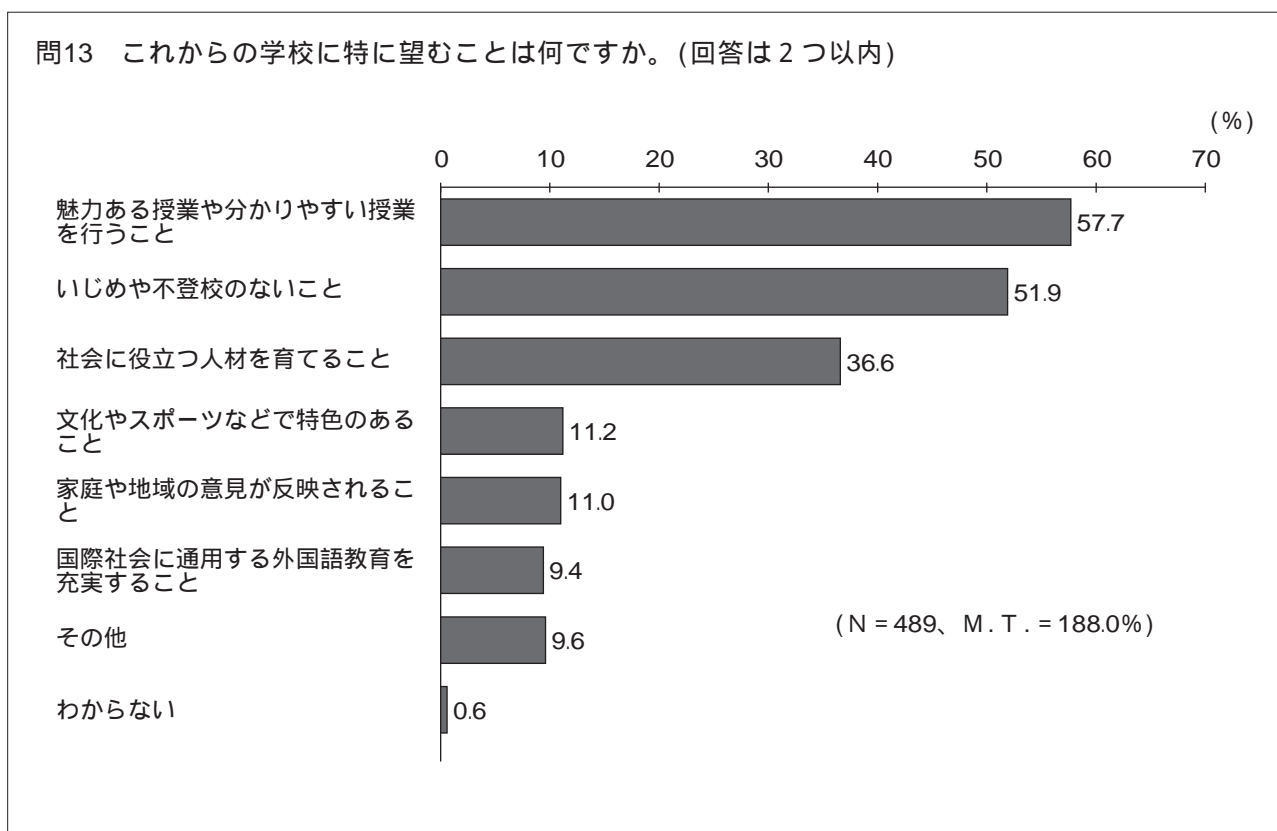


子どもの教育に地域社会のどのような取組が重要と思うかを尋ねたところ、「地域の住民同士が、気軽にあいさつや会話をする事」が62.6%、「地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること」が42.3%、「年代の違う大人や子どもが交流できる機会を増やすこと」が35.0%などとなっている。

多くの方が「気軽にあいさつや会話をする事」が地域での取組として重要であると回答していることから、地域社会における人間関係が希薄化していることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

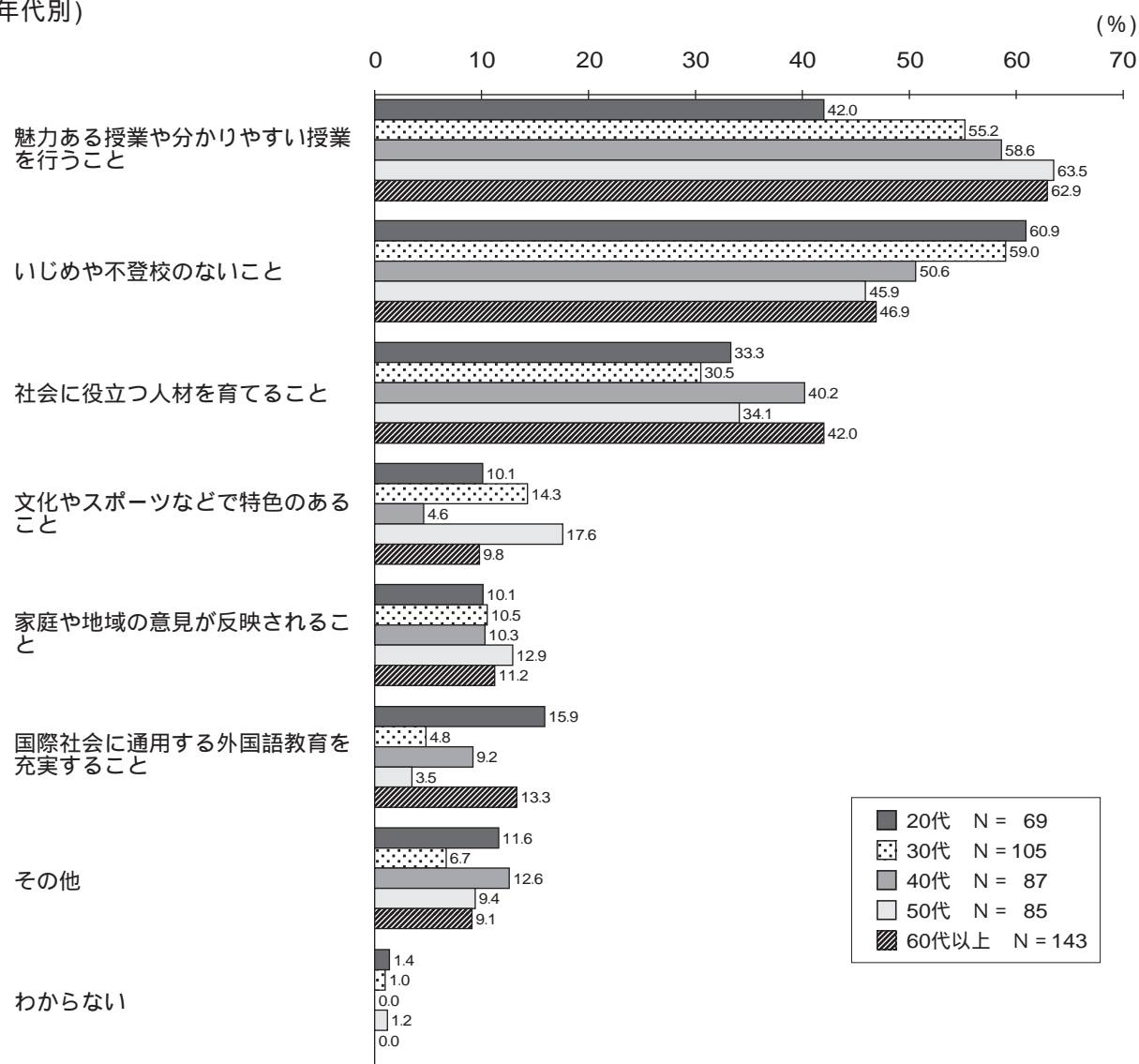
4 学校について



これからの学校に特に望むことについて尋ねたところ、「魅力ある授業や分かりやすい授業を行うこと」が57.7%、「いじめや不登校のないこと」が51.9%、「社会に役立つ人材を育てること」が36.6%などとなっている。

年代別にみると、20代、30代では「いじめや不登校のないこと」と答えた人の割合が最も高くなっているが、40代、50代、60代以上では「魅力ある授業や分かりやすい授業を行うこと」と答えた人の割合が最も高くなっている。

(年代別)



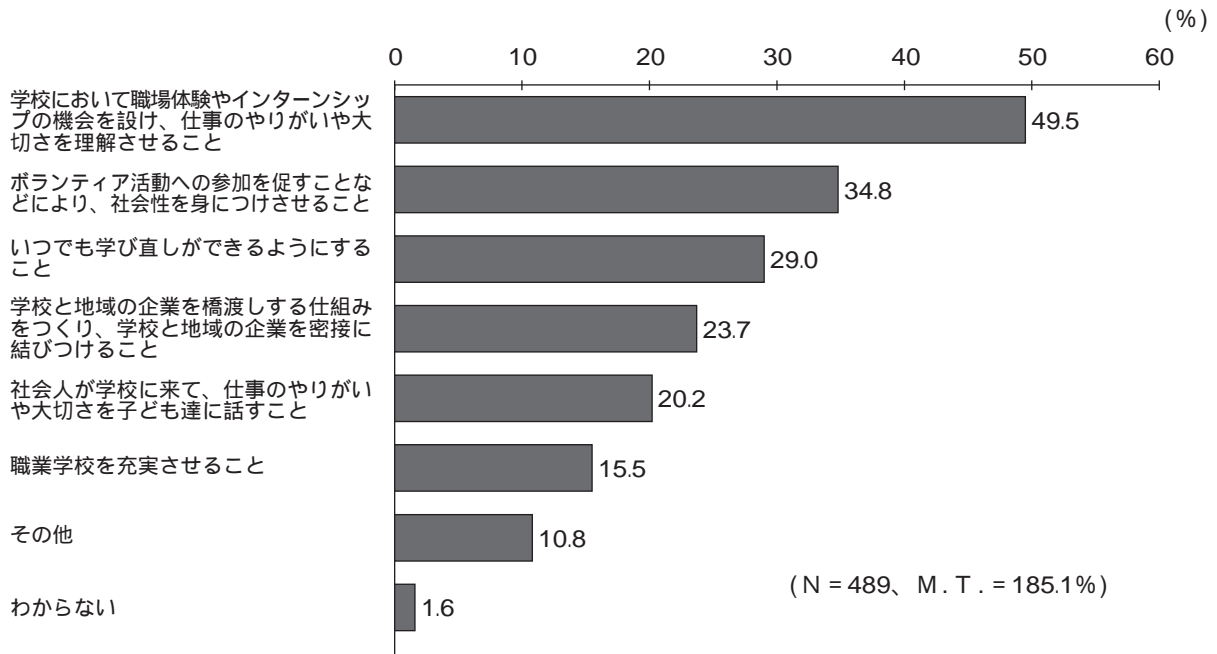
魅力ある授業やわかりやすい授業を行うこと、社会に役立つ人材を育てることを、多くの方が学校に望んでいることから、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けるとともに、自立した生徒の育成が求められていることがうかがわれます。

また、いじめや不登校については特に若い年代で心配されており、いじめや不登校への対策が望まれていることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

5 不安定な状態にある若者について

問14 全国で、ニートは約60万人、フリーターは約180万人いると言われ、社会生活が不安定な状態にある若者の増加が問題となっています。このような現象をなくしていくためにはどのような教育が必要と思いますか。(回答は2つ以内)

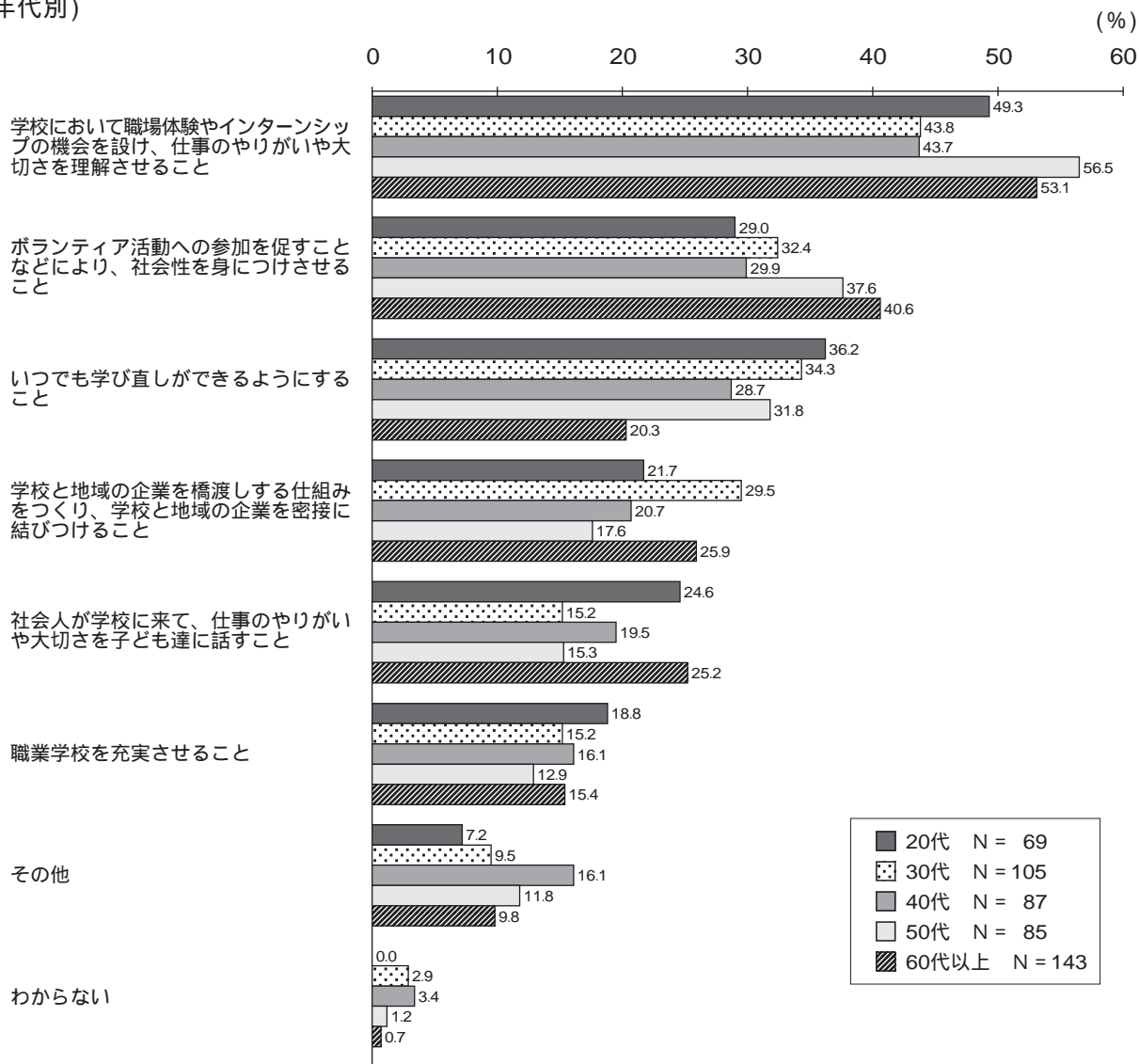


社会生活が不安定な状態にある若者をなくしていくために、どのような教育が必要と思うかについて尋ねたところ、「学校において職場体験やインターンシップの機会を設け、仕事のやりがいや大切さを理解させること」が49.5%、「ボランティア活動への参加を促すことなどにより、社会性を身につけさせること」が34.8%、「いつでも学び直しができるようにすること」が29.0%などとなっている。

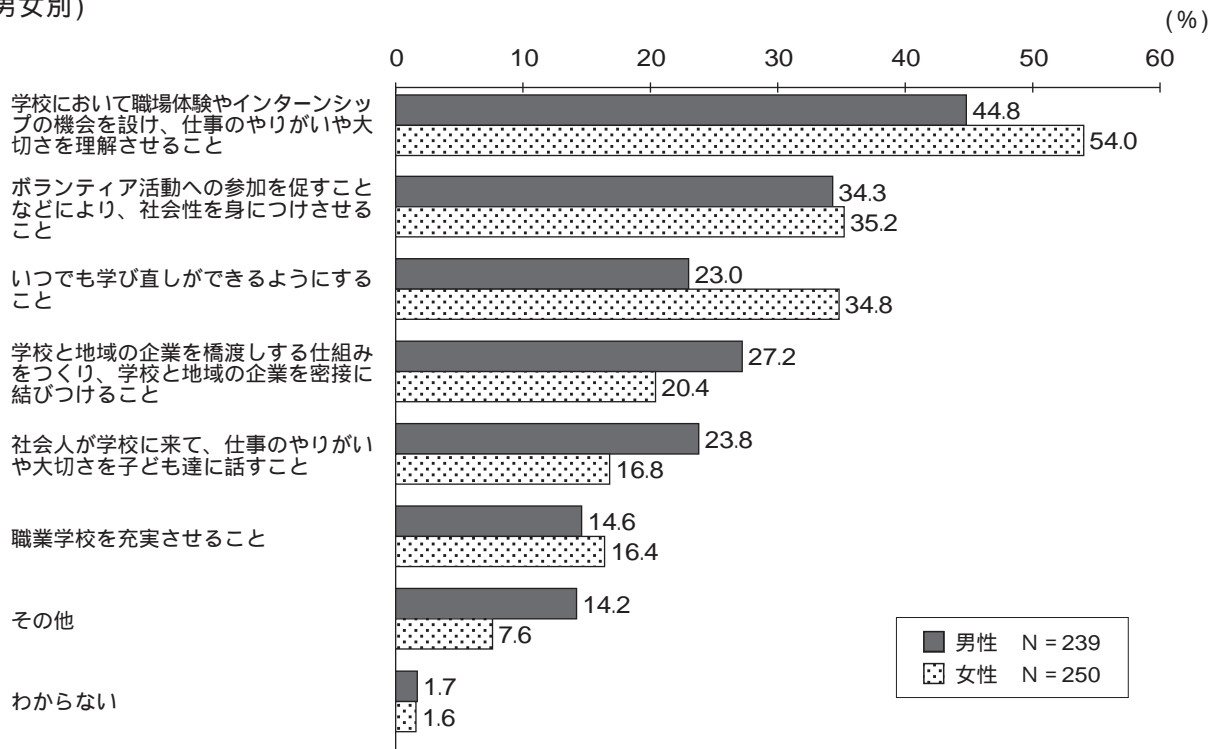
年代別にみると、どの年代も「学校において職場体験やインターンシップの機会を設け、仕事のやりがいや大切さを理解させること」と答えた人の割合が最も高くなっているが、次いで答えた人の割合が高いのは、20代、30代で「いつでも学び直しができるようにすること」、40代、50代、60代以上で「ボランティア活動への参加を促すことなどにより、社会性を身につけさせること」となっている。

男女別にみると、男性では「社会人が学校に来て、仕事のやりがいや大切さを子ども達に話すこと」と答えた人の割合が相対的に高く、女性では「いつでも学び直しができるようにすること」と答えた人の割合が相対的に高くなっている。

(年代別)



(男女別)



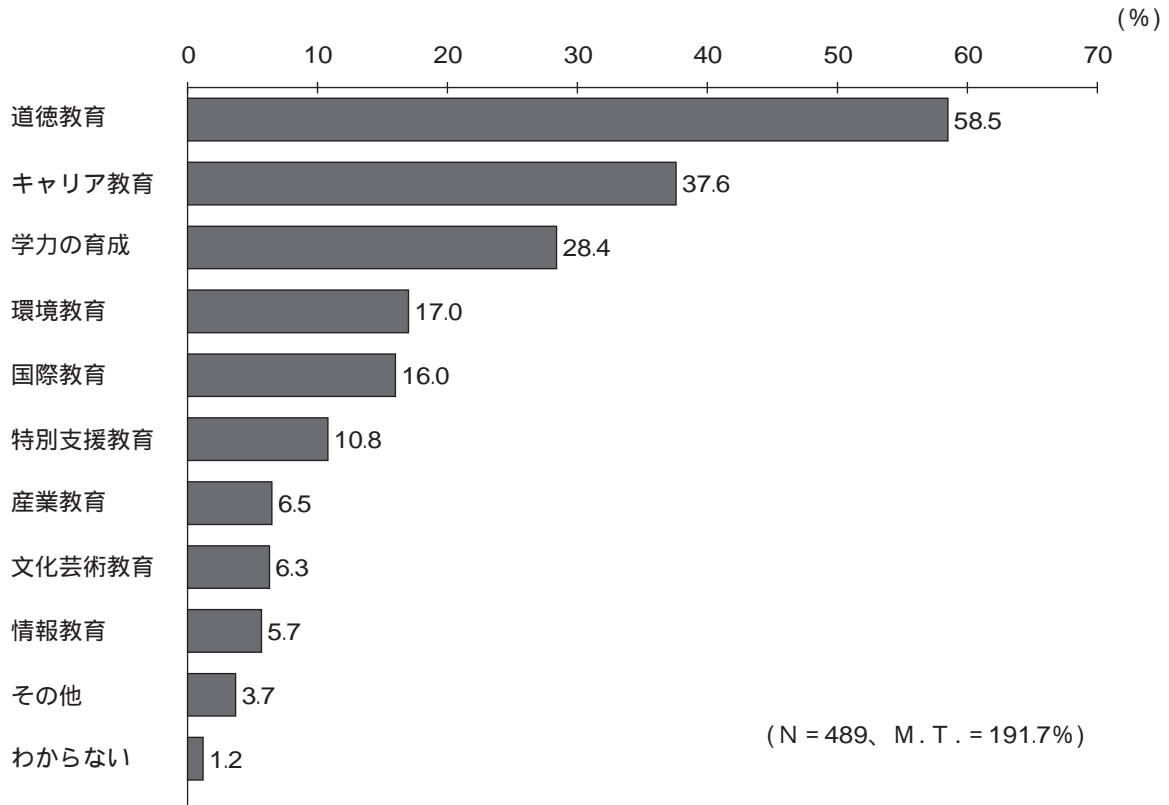
半数近くの方が、職場体験やインターンシップ、ボランティアを行うことが必要であると回答していることから、将来、どのような職業に就いて自己実現を果たしていくかなど、自己有用感の醸成についての対策が必要であると考えていることがうかがわれます。

男女別をみると、「仕事のやりがいや大切さを理解させる」ことや「いつでも学び直しができるようにすること」について、女性が男性と比較して10%程度多く「必要である」と回答していることから、女性は男性に比べて、社会参加に直接結びつく教育を強く望んでいることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

6 教育全般

問15 子ども達の将来のために、愛知県は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。(回答は2つ以内)



(キャリア教育)

子どもたちに将来の生き方や社会人、職業人としての在り方を考えさせ、望ましい勤労観・職業観や、社会に貢献していく態度と時代の変化に対応できる基礎的・基本的な資質と能力を育成する教育

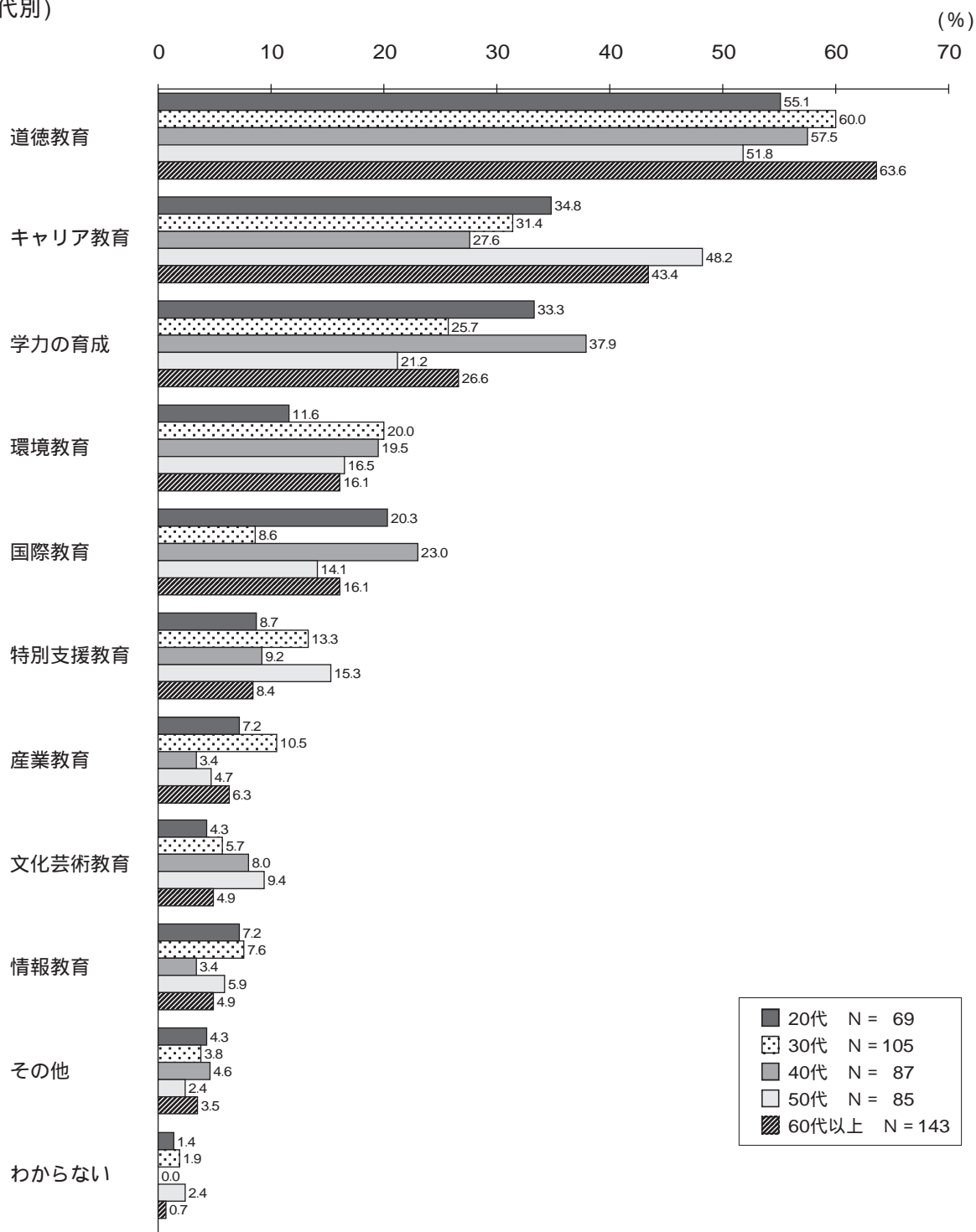
(特別支援教育)

障害のある子どもの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、社会参加するために必要な能力をつちかうため、一人一人の障害の状態などに応じ適切に行う教育

子ども達の将来のために、愛知県は、どのような教育分野に力を入れていくべきかを尋ねたところ、「道徳教育」が58.5%、「キャリア教育」が37.6%、「学力の育成」が28.4%、「環境教育」が17.0%、「国際教育」が16.0%、「特別支援教育」が10.8%などとなっている。

年代別にみると、どの年代も「道徳教育」と答えた人の割合が最も高くなっているが、次いで答えた人の割合が高いのは、40代では「学力の育成」となっているが、それ以外の年代では「キャリア教育」となっている。

(年代別)



問13では学校に特に望むこととして「魅力ある授業・わかりやすい授業」があげられたが、教育分野としては、「道徳教育」と「キャリア教育」が学力の育成を上回った。このことから、子どもに身に付けてほしい能力としては、規範意識や社会性、勤労意欲など、人格形成を重視していることがうかがわれます。

(教育委員会総務課教育企画室)

7 自由意見

問16 あいちの教育についてご意見があれば、自由にご記入ください。

あいちの教育について、自由に意見を記入していただいたところ、215件の意見が寄せられた。それらを大別すると次表のとおりであり、以下、その意見の要旨をいくつか例示した。

項 目	件 数
(1) 家庭教育	26
(2) 地域の教育	6
(3) 道徳・マナー・しつけ	32
(4) 生徒指導、いじめ、不登校	9
(5) キャリア教育	26
(6) 魅力ある学校	13
(7) 学力	25
(8) 体づくり	5
(9) 特別支援教育	6
(10) その他学校教育	5
(11) 教員の資質・多忙化	19
(12) 教育費	9
(13) 教育委員会	4
(14) アクションプラン	7
(15) 教育全般	9
(16) その他	14
合 計	215

(1) 家庭教育

自分の子どもは自分が責任をもって育成・教育するという親の自覚が欠けている。その自覚を忘れ学校教育に口を出すモンスターペアレントなんてもっての他である。家庭教育・学校教育・社会教育の3者が相まってはじめて教育の推進が図られるが、原点は家庭教育にある。家庭教育の重要性についての理解を高める周知啓蒙活動の推進を望む。

少子化の現在、過保護になってしまいがちだが、大人の知恵と判断で、子どもの可能性を伸ばすために「見守る」ということも大切なのではないか。家庭で親としての自覚を持って子育てをしなければ、学校等で受ける教育に負担をかけることになる。

世の中のすべての事は家庭内の教育やしつけから始まっていると思う。家庭で覚えるべき事を学校や世の中に責任を持たせるような人が多くなっている。これからの若い親になるべき人を教育していった方が良いと思うが。

外国に暮らす孫を見ると、父親が積極的に育児に携わっている。のびのびと、父親を信頼し、一緒に遊び考え合っている。話しを幼児の頃からきちっとしている。

少人数の家族も多く、親も教育に関しては手探りの方も多いと思う。親の教育講座が必要だと思う。

(2) 地域の教育

子どもの教育は、親が主となって、地域の方、学校など周りのみんなで行うものと考えている。子どもが周りの大人を見て、自然に学んで行ける社会であって欲しい。

今の小学生は外見上十分に大人だが、中身は本当に幼い。しかし、大人は外見だけ見て悪いことをする。学校では性教育、麻薬、いじめやひきこもり、精神障害等多くの課題があるが、教師だけではなく関わりある多くの大人たちが真剣に取り組んでいかなければならないと思う。

(3) 道徳・マナー・しつけ

マナーや作法がなっていないというより、マナーや作法を知らないのではと感じる。一言でいうと大人をナメているように思う。尊敬できない人間に従いたくないのは誰もが同じ。まずは手本となる大人の身の置き方に焦点をあてるべきだと思う。

子どもたちが生き活きと将来に夢を持ち、自分に責任を持ち、自分の考えを言葉で人に伝え、人に迷惑をかけない大人になって欲しい。歴史は直近の過去から教えていないし、遠い昔を今と関係ない様に教える。自分の親が自分の世代にどんな時代背景を生きたかを学ぶことにより、親を知り、尊敬し、金以外の価値も知るのではないか。必死に働く親に食べさせてもらいながら社会のことを関係ないと言ってしまう大人をこれ以上作らないで欲しい。

戦争のことや世界の現状を伝え、自分たちの今が当たり前でなく幸せであることを感じて欲しい。命や食べ物など大切に思える教育を伝えて欲しい。

昔は貧乏でも心は今ほど貧乏ではなかった。親は子の、子は親の命の大切さが分からなくなっている。親と子、学校と地域、それぞれが互いに良くしようとする心が育てられていない。義務教育の9年間は何を教えられているのか。学力も落ちている。抜本的な子ども教育の改革を望みたい。

愛知県の交通マナーは日本一悪いと聞くが、子どもからのしつけや、モラル教育が不十分だったことを証明している。

私立学校の方が様々な取組を独自に行っており、私立学校か公立学校に行くかによって、取り組

まれる教育の内容に格差が出ていると思う。公立学校に対して、もう少し教育方針を具体化して、県内統一された教育、教養だけではなくモラルなどの指導もして欲しい。

携帯電話の学校裏サイトによるいじめ、出会い系サイトによる児童買春などの問題があり、心身ともに大きく成長する小・中学校の時期には、携帯電話は必要ないように思う。そこで、もっと親に対して子どもに携帯電話を持たせないような啓発活動を行うと同時に、学校には持ってこさせないという強い態度を示しても良い様に思う。

(4) 生徒指導、いじめ、不登校

不登校の子どもが学校に見捨てられているようでとても見てもらえない。先生が訪問するのは次の学年に進級する前の春休みに義務的に行われている。校長始め学校側全ての問題として受け止めて欲しい。一つにつまずきが確実に人生を台無しにしている。

いじめによる自殺などが多いので、精神面でのサポートを充実してあげて欲しいと思う。

学校周辺をはじめ、校内の清掃、運動場の草取りなど生徒にやらせてほしい。自らが学ぶ場所だ。進んでやらせる指導をして欲しい。

愛知県の子どもたちは、他県の子どもより、教育、親の収入、地理的条件など色々な面で恵まれていると思うので、たくましい子を育てるため少しは厳しさを与えるべきだと思う。

(5) キャリア教育

子どもがそれぞれの学習力や得意な分野、個性を伸ばせる教育が望ましい。ゆとりだけでも競争だけでなく、将来の希望や夢、どの様な仕事にもやりがいがある事、一生続けて行けることを大切に伝える（理解できる）教育が必要。

子どもたちに、コミュニケーション能力を付けさせて欲しい。そのためには、今の自分の気持ちに敏感になること、自分の感情を大切にすること。そうすれば、自分の好きなことや、したいことがよく分かり、職業についての意識も高まり、みんなが生き生きできる社会になると思う。

子どもたちの自立への道筋づくりを望む。家庭でできる細かなしつけは家庭に任せ、学校では社会性を身に付けられるような働きかけをして欲しい。地域の中の自分について考えられるような体験学習が増えると良いと思う。

ニート・フリーターの増加は、学校の生ぬるさと社会の厳しさとのギャップの大きさによるものと思われる。例えば、部活動に参加せず、帰宅後ゲームやパソコンで時間をつぶすような子どもは卒業後も楽な方へ流れていってしまうように思う。学校の集団生活の中や教科授業以外の部分で、子どもにやりがいや社会に貢献することの大切さを学ぶ場がもっとたくさんあるとよいと思う。

小・中・高・大などの別を問わず、教育の現場を「象牙の塔」にしないことだ。地域住民や地場

産業との交流を密にして民間講師を招聘したり、逆に生徒たちが職業体験やボランティアなどを自由にしたりできるような、フレキシブルなカリキュラムを作って欲しい。

卒業と同時に第一線で働ける様な、4、5年通う専門学校の高校を増やせば、親も教育費が減り、年金も20歳から払うことができるのではないかな。

若者へ勤労意欲を持たせる教育は大事だが現状では受け皿が無いのが実態だ。教育と同時に若者が働く場所を作る取り組みも同時に考えないと、努力をしても報われぬ夢の持てない若者が増えるばかりだ。

(6) 魅力ある学校

県立大学の活性化として、地域の人々の参加型の教育、学び場として盛り上がると良いと思う。

製造業や農業が強い愛知県だから、製造業と農業をもっと教育に全面的に出しても良いと思う。

公民館や公共施設、中規模公園や資料館など、校外での教育は地域への愛にも繋がるので、総合的な学習の時間以外でも、そうした場所での教育を行うことが良いと思う。

各学校の特色を活かした教育方針を認め、学力主義を無くして欲しい。特に中学や高校は進学を競い合うが、それよりも、いじめや不登校がない、中退がない、離職率が低いなど、本来の生活に結びついた教育力を評価しアピールして欲しい。

学校によって特色がいろいろあるのはわかるが、特色がありすぎると、子どもがうらやましい気持ちになるらしい。設備の違いを出来るだけなくして欲しい。

(7) 学力

景気回復があまり感じられない中、家庭の収入の格差が子どもの教育に影響をしている。義務教育では特に基礎・基本が定着するような充実した内容と指導を、また、塾や習い事に行かなくてもその子のやる気次第で補習や様々な体験ができるような機会を設けてもらいたい。

自分が学生の頃は、月曜日から土曜日まで学校へ行った。子どもたちに時間を与えて何を習得できるのだろうか？土曜日になると、ゲームセンターに集まる子どもたちを見て将来がどうなるのだろうと不安に思う。昔のような教育をすることがよいのではないかな。

学校以外でも勉強しなければ標準学力に達しないようでは困る。予算を抑える為に、非正規教員を多用しているという新聞記事を読んだ。あまり経験もないのに突然クラスを任せては、子どもたちが迷惑するだけ。正規教員を増やして欲しい。

漢字や計算など繰り返し行うことによって身に付く学習が、私たちの世代より、今の子どもたちは少ない様に感じる。ゲームをやる時間があったら、漢字や計算練習をもっとすべきだと思う。

英語が話せるようにということは、専門学校に任せ、母国語できちんと物を考える人間を育てな

ければならないと思う。日本人なら日本語で考え、日本の文化をもっと理解すべきである。国語教育の充実を望む。

全国学力テストの実施には反対だ。専門職の方を招いて行う子どもへの講習等、もっと有意義なことに予算を使って欲しい。

「スペシャリスト」の育成をして欲しい。数学が苦手でも日本史が得意な子どもには、数学を補習させるのではなく、もっと日本史を重点的に学習させてあげたい。

「総合的な学習の時間」といった幅広い分野の活動時間に力を入れているが、肝心の学力が私たちの子どもの頃と比較すると低下していることが気がかりだ。(特に小中学校)

(8) 体づくり

「よく学びよく遊ぶ」が昔からの教育の基本だ。現代の子どもたちはあまり外で遊んでいないし、テレビ等を見ていて動かない。授業後は学校の校庭を開放して、野球やボール投げ、走り幅跳びなど体を動かすことをすすめるべきだ。

(9) 特別支援教育

特別支援教育はすごいことだと思う。障害を抱えている人が身近にいない人は尻込みをしそうなので、もっと情報を流したら良いのではないかと思う。

特別支援学級を教育する者は養護学校教員免許資格者にした方が良い。障害に対しての知識が無く、保護者との間でトラブルが起きているのが実状であり、単なる教員免許所持者は、勉強して障害の事を知るといふ努力も見受けられないという意見が多数ある。

(10) その他学校教育

中学生になったら部活が大変と親がよく言っているが、青少年の育成に大変役立ち、みんなで力を合わせて努力して忍耐強い人間になり、卒業する頃には保護者も部活動をやってきて良かったと感謝するようになる。先生も忙しいので大変だと思うが、これからも続けていただきたい。

学校の英語授業の内容では、社会に出てからあまり役に立たない。国際交流も頻繁になると思うので、実践的な授業を行ったり、小学生から英語が必須になっていくと良いと思う。

(11) 教員の資質・多忙化

学校教育は、現場の教師の能力によって決まる。生徒を「教え伸ばす」という熱意があるかということが肝要だ。行政は、こうした人材を採用し、任用後も教師に対してこうした精神面の教育を行うことが重要だ。又、モンスターペアレントと呼ばれる保護者にも臆することなく教育信念を貫く教師を望む。行政も責任論に走るのではなく、気骨ある教師のバックアップをして欲しい。

教師の中でも道德教育が出来ていない人がいる様なので、大学を卒業して2・3年は企業の中でいろいろなことを体験して欲しい。

教師の服装について、尊敬されるべき姿が必要だ。運動着姿やサンダル履きで授業をするようでは指導者として失格である。

民主主義が行き過ぎ、教師に対し、勝手なことを言う親が多いと聞く。教師も自信を失っている。教師の現場にあまり親を関与させるべきではない。問題が生じた場合、管理職は適格に判断し、世間におもねるのではなく、毅然とした対処をするべきだ。

色々なカリキュラムが増えるのは賛成だが、教師の負担が大きくなり過ぎないようにして欲しい。また、教師が忙しくなると、どうしても指導が薄くなる様に感じるので、サラリーマン化にならない様な対策もして欲しい。

先生も子供がいると思うので、家庭教育・学校教育を伸び伸びとやっていただくために、先生の給料を安くして先生の人数を多くして、先生を明るくさせ、生徒をびしびしごいて信頼される様になって欲しい。

(12) 教育費

不況による親の収入減のため、教育を続けられない高校生が多いと聞くので、奨学金の貸与等、経済的な援助を充実して欲しい。

学力テストの結果が発表されたが、教育にはお金がかかる。塾には通わせないと心配な面が多々ある。東大へ入学した人は高収入の方が多いと言われているが、みんなが費用面で通えるわけではない。

(13) 教育委員会

教育委員を増員して、官出身者でない一般民間人の意見をよく聞き多用すべきだ。現在の6名の意思決定では片寄りがある。

学校現場に地域の人々を参加させて、教育委員会とは別の意味で自主的な活動を推進して、お金・物・人を現場に与える。

愛知県の教育委員会は、全国的に見てもとても保守的だと聞く。男性ばかりで物事を決めると保守的になってしまうので、一般家庭の主婦、子育て中の母親などを交えると違うと思う。

愛知では教師になりたくないという話を結構聞いたことがあるので、教育委員会を改革して、愛知で教師になりたいと思えるようにして欲しい。

(14) アクションプラン

「あいちの教育に関するアクションプラン」が何に取り組もうとされているのかが地域に浸透していない。あらゆる手段を講じて住民に周知徹底を図って欲しい。「情報モラルの向上」は素晴らしいテーマであるが地域にどれほど浸透しているのか疑問である。

県の取組はなかなか一般家庭にまで伝わってこない。県と学校が関係を密にし、学校と家庭の関係を強固なものにして取り組む体制を作るべきである。

我が家も「ノーテレビ」を実行している。「ノーテレビ・ノーゲーム」の日を促進しているのは大変よいと思う。その分、有効に時間を使えるので1日が充実する。

(15) 教育全般

親や子どもたちの声はよく取り上げられるが、教師の現場の声はあまり重要視されていないような気がする。本当の教育を向上させるためには、教師の声を聞き、そして育てていかなければ、事業に取り組んだという形だけの教育で終わってしまうと思う。

愛知県も都会化しているが、まだまだ良い意味で田舎の部分があると思うので、そのあたりが教育に生かすことが出来ると良いと考える。

少ない子どもたちを日本の宝として、どの子どもたちも大切に社会全体で育てていくという意識が大切であると思う。

(16) その他

公立高校は校舎施設が古すぎる。

世代を超えた付き合いができるサークルのようなものが愛知県には少ないと感じている。

子どもの数が減少しクラス数が少ない学校が増えている中で、今までと同じシステムで授業を行うことは様々な面で効果が出にくく、不経済なことが多いと思われる。

良い本をたくさん読んで、みんながそこから何かを得てくれれば自ずと成長してくれると思う。だから読書をするをもっと大々的にPRすると良いと思う。

質問と回答 (単位...「総数」：人、「総数」以外：%、四捨五入により合計は必ずしも100%にならない)

I あいちの健康福祉

1 健康福祉全般

問1 現在や将来の生活に、福祉や医療の面で様々な不安があると思いますが、今後どのような施策を充実させていくべきだと思いますか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 安心して出産、子育てができるよう、出産や子育て家庭に対する支援	50.3	54.4	46.4	50.7	52.7	47.1	60.9	68.6	37.9	38.8	46.2
2 必要なときに、必要な介護を受けることができる介護サービスの充実や、介護が必要な状態にならないための介護予防サービス	60.5	56.5	64.4	62.7	60.2	58.8	49.3	49.5	67.8	62.4	68.5
3 元気な高齢者が生きがいをもって社会参加できるための施策	26.4	31.4	21.6	28.0	26.9	24.2	14.5	21.9	23.0	25.9	37.8
4 障害のある人も地域で自立した生活ができるよう、日常生活や社会生活を支援するサービス	19.8	16.7	22.8	15.3	17.2	27.5	10.1	21.9	20.7	28.2	17.5
5 子どもや女性などの人権が尊重されるよう、児童虐待やドメスティックバイオレンス(配偶者からの暴力)などへの対応や予防	8.6	6.3	10.8	10.0	8.1	7.8	20.3	3.8	11.5	4.7	7.0
6 経済的に困窮している人への福祉・医療面での支援	18.6	18.8	18.4	18.7	21.5	15.0	27.5	15.2	24.1	15.3	15.4
7 メタボリックシンドローム対策やがん対策をはじめとする生活習慣病予防や健康づくりの推進	11.5	10.9	12.0	10.7	10.2	13.7	10.1	4.8	10.3	12.9	16.8
8 緊急時に必要な医療を受けることができるよう、救急医療の確保	47.9	50.6	45.2	52.7	42.5	49.7	39.1	49.5	50.6	49.4	48.3
9 身近な地域で出産でき、子どもの病気に対応できるよう、産科・小児科などの確保	24.9	21.3	28.4	20.7	25.8	28.1	29.0	29.5	20.7	25.9	21.7
10 新型インフルエンザや結核など感染症の流行に備えて、予防や対応策の充実	19.4	17.6	21.2	18.7	23.1	15.7	23.2	23.8	21.8	21.2	11.9
11 その他	1.8	2.5	1.2	2.0	1.1	2.6	4.3	1.0	1.1	2.4	1.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2 高齢者・地域福祉

問 2 (1) 今後、高齢化の進展に伴い、高齢者夫婦のみの世帯や、一人暮らしの高齢者が増加すると見込まれています。こうした高齢者が地域で生活をしていくためには、ゴミ出しや電球の交換、買い物の手助けといったような日常的な支援が必要な場合がありますが、こうした支援は、公的な福祉サービスだけでは対応が難しく、地域の住民間の支えあいが必要だといわれています。あなたは、こうした支援をすることについてどう思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 支援しようと思う	20.0	20.1	20.0	20.0	19.9	20.3	20.3	15.2	14.9	21.2	25.9
2 依頼されれば、支援しようと思う	66.7	63.6	69.6	66.7	67.7	65.4	69.6	66.7	70.1	64.7	64.3
3 支援しようとは思わない	3.5	4.6	2.4	4.0	2.2	4.6	5.8	3.8	3.4	4.7	1.4
4 その他	4.3	6.3	2.4	4.0	5.4	3.3	0.0	5.7	6.9	3.5	4.2
5 わからない	5.5	5.4	5.6	5.3	4.8	6.5	4.3	8.6	4.6	5.9	4.2
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問 2 (2) 『問 2 (1)で「3 支援しようとは思わない』と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。
(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	17	11	6	6	4	7	4	4	3	4	2
1 遠方であっても家族や親族が支援するべきであると思う	23.5	36.4	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	33.3	25.0	0.0
2 他人の生活にふみこみたくない	58.8	63.6	50.0	66.7	25.0	71.4	50.0	25.0	66.7	75.0	100.0
3 地域や近所のつきあいがわずらわしい	17.6	18.2	16.7	33.3	0.0	14.3	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0
4 仕事や家事などで忙しい	41.2	45.5	33.3	33.3	50.0	42.9	100.0	25.0	0.0	50.0	0.0
5 支援に必要な技術や経験がない	11.8	9.1	16.7	16.7	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0
6 その他	11.8	9.1	16.7	0.0	25.0	14.3	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3 障害者福祉

問3(1) 障害のある方が施設ではなく街の中で暮らせるよう、住まいの場や働く場を身近に確保したり、車椅子を利用される方などが暮らしやすい環境を整えたりするなど、障害のある人もない人も、誰もが地域で普通に生活することのできる社会づくり（いわゆる「ノーマライゼーション」）をご存じですか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 よく知っている	22.1	23.0	21.2	22.7	23.7	19.6	29.0	22.9	14.9	27.1	19.6
2 聞いたことはある	40.1	35.6	44.4	42.0	38.7	39.9	44.9	33.3	41.4	35.3	44.8
3 知らない	37.8	41.4	34.4	35.3	37.6	40.5	26.1	43.8	43.7	37.6	35.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問3(2) 『問3(1)で「1よく知っている」』と答えた方にお尋ねします。こうした社会づくりは、10年前と比べて進んでいると思いますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	108	55	53	34	44	30	20	24	13	23	28
1 かなり進んでいる	11.1	10.9	11.3	14.7	11.4	6.7	10.0	8.3	0.0	17.4	14.3
2 少しずつ進んでいる	63.9	67.3	60.4	64.7	47.7	86.7	75.0	62.5	61.5	60.9	60.7
3 進んでいない	21.3	18.2	24.5	17.6	34.1	6.7	15.0	29.2	38.5	8.7	21.4
4 わからない	3.7	3.6	3.8	2.9	6.8	0.0	0.0	0.0	0.0	13.0	3.6
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問4 障害者福祉の分野では、ノーマライゼーションの理念のもと、障害のある人も施設や病院で生活するのではなく、まちの中で普通に生活を送ることが目指されています。そのために、どんなことが重要になるとお考えですか。(回答は3つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 障害のある人々への理解を深めるための広報・啓発	39.7	38.5	40.8	47.3	36.6	35.9	46.4	43.8	31.0	34.1	42.0
2 点字・手話、音声コードなどによる情報提供の充実	24.3	19.7	28.8	23.3	27.4	21.6	33.3	23.8	25.3	29.4	16.8
3 障害のある人や家族への相談体制の充実	27.6	31.8	23.6	22.0	32.8	26.8	18.8	22.9	25.3	31.8	34.3
4 障害のある人に配慮した建物、交通機関の整備	51.7	54.0	49.6	56.7	53.2	45.1	53.6	60.0	51.7	51.8	44.8
5 ホームヘルプ、ショートステイなどの在宅サービスの充実	26.8	22.2	31.2	26.0	27.4	26.8	29.0	20.0	27.6	22.4	32.9
6 グループホーム・ケアホームなどの住まいの場の確保	17.0	14.6	19.2	12.7	18.3	19.6	13.0	14.3	20.7	16.5	18.9
7 保健・医療サービスの充実	18.0	19.2	16.8	20.7	14.0	20.3	17.4	14.3	19.5	20.0	18.9
8 障害者にとって生活が安定する所得の確保	31.9	33.9	30.0	26.7	32.3	36.6	27.5	32.4	33.3	32.9	32.2
9 職業訓練の充実や企業における雇用の促進など働く場の確保	44.2	44.4	44.0	45.3	44.1	43.1	43.5	52.4	42.5	42.4	40.6
10 その他	1.8	2.1	1.6	2.0	0.5	3.3	1.4	1.0	2.3	1.2	2.8
11 わからない	1.2	1.7	0.8	0.7	1.1	2.0	1.4	1.9	2.3	1.2	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

4 救急医療

問5 「日中、仕事で行けないから」「夜のほうが空いているから」などの理由で、安易に夜間の救急医療を利用する人が増えていることが指摘されています。こうした状況は「コンビニ受診」とも言われ、その結果、救急車で搬送された重症患者への対応が困難になる恐れも指摘されていますが、これについてどう思いますか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 まず、最寄の休日・夜間診療所や在宅当番医を受診するように、住民一人ひとりへの意識啓発や情報の周知をはかることが必要である。	32.1	31.4	32.8	39.3	30.1	27.5	29.0	22.9	28.7	35.3	40.6
2 患者や家族が症状を判断できるよう、電話相談窓口等を充実させることが必要である。	15.5	10.5	20.4	16.7	16.7	13.1	15.9	16.2	18.4	12.9	14.7
3 いわゆる「コンビニ受診」をする人には相応の負担をしてもらうことが必要である。	39.1	46.0	32.4	34.0	38.7	44.4	31.9	45.7	41.4	34.1	39.2
4 日中は時間がなかったり、軽症かどうかの判断は難しく心配であるなど、それぞれ理由があり、受診はやむをえないと思う。	8.0	6.7	9.2	5.3	10.8	7.2	15.9	8.6	5.7	9.4	4.2
5 その他	4.3	4.2	4.4	4.0	3.2	5.9	5.8	4.8	3.4	8.2	1.4
6 わからない	1.0	1.3	0.8	0.7	0.5	2.0	1.4	1.9	2.3	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 役割分担

問6 今後、福祉サービスの需要が増大すると思われませんが、そうした中で特に重要となってくることは次のうち何だと思えますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 個人や家族などの自助努力	29.2	34.3	24.4	30.7	30.6	26.1	24.6	23.8	24.1	29.4	38.5
2 民間サービスの充実	26.8	22.6	30.8	20.0	31.2	28.1	37.7	36.2	25.3	24.7	16.8
3 ボランティア活動やNPO活動	19.2	22.2	16.4	18.7	20.4	18.3	5.8	14.3	17.2	30.6	23.8
4 地域の人々の助け合い	38.0	36.4	39.6	42.7	36.6	35.3	36.2	37.1	43.7	29.4	41.3
5 福祉に対する企業の貢献	18.4	19.2	17.6	18.0	11.8	26.8	23.2	21.9	21.8	15.3	13.3
6 国、県、市町村の行政施策の充実	56.2	53.6	58.8	57.3	54.8	56.9	58.0	53.3	54.0	61.2	55.9
7 その他	2.7	2.9	2.4	3.3	2.7	2.0	2.9	2.9	3.4	1.2	2.8
8 わからない	1.0	0.4	1.6	0.7	1.1	1.3	1.4	1.0	1.1	2.4	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 費用負担

問7 少子・高齢社会の進行に伴い、これからの福祉サービスを充実していくためには相応の経費が必要となり、税金や社会保険料などの負担が増加することが考えられますが、次のうちあなたの考えはどれに近いですか。(回答は1つ)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 負担が増えてもいいから、今以上の福祉サービスを実施すべきだ	5.3	7.1	3.6	5.3	4.8	5.9	4.3	6.7	6.9	2.4	5.6
2 ある程度負担が増えることはやむを得ないことだが、福祉サービスを受ける人が収入等に応じて利用料などを負担すべきだ	51.7	55.6	48.0	51.3	51.1	52.9	42.0	49.5	46.0	56.5	58.7
3 負担が増えないように、他の施策に優先して、福祉の充実に努めるべきだ	29.0	23.8	34.0	28.0	28.5	30.7	34.8	26.7	32.2	24.7	28.7
4 働く世代の負担が重くならないよう、福祉サービスはある程度の水準に止めるべきだ	8.6	7.9	9.2	12.0	8.6	5.2	14.5	12.4	8.0	11.8	1.4
5 その他	3.9	3.8	4.0	3.3	4.3	3.9	4.3	3.8	4.6	3.5	3.5
6 わからない	1.4	1.7	1.2	0.0	2.7	1.3	0.0	1.0	2.3	1.2	2.1
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

あいちの教育の推進

1 「あいちの教育に関するアクションプラン」について

問9 愛知県教育委員会では、「あいちの教育に関するアクションプラン（平成19年4月）」に基づき、毎年度、家庭や地域、学校で取り組んで欲しいテーマを定め、重点的に取り組んでいます。（19年度は「ノーテレビデー・ノーゲームデー」、20年度は「モラルの向上」、21年度は「情報モラルの向上」）。教育を取り巻く環境変化を踏まえ、県教育委員会が毎年度テーマを絞って重点的な取り組みを進めていることについて、どのように思いますか。（回答は1つ）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 テーマを設定していることは知っており、取組を重点化することは効果的と思う	7.0	6.3	7.6	3.3	9.7	7.2	7.2	3.8	9.2	5.9	8.4
2 テーマを設定していることは知っているが、取組を重点化せずに、教育全般に広く取り組む方が良い	7.6	6.7	8.4	6.0	4.3	13.1	4.3	6.7	11.5	8.2	7.0
3 テーマを設定していることは知らなかったが、取組を重点化することは効果的と思う	58.7	59.0	58.4	61.3	60.2	54.2	59.4	60.0	49.4	69.4	56.6
4 テーマを設定していることは知らなかったが、取組を重点化せずに、教育全般に広く取り組む方が良い	17.6	17.2	18.0	20.7	18.8	13.1	21.7	19.0	17.2	12.9	17.5
5 その他	5.1	7.1	3.2	4.0	4.8	6.5	4.3	4.8	8.0	2.4	5.6
6 わからない	4.1	3.8	4.4	4.7	2.2	5.9	2.9	5.7	4.6	1.2	4.9
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問10 「あいちの教育に関するアクションプラン」に基づく取り組みが多くの人に伝わるには、どのようにしたらよいと思いますか。（回答は2つ以内）

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 テレビ、新聞等のマスメディアによる広報	68.7	59.4	77.6	68.0	70.4	67.3	65.2	69.5	63.2	69.4	72.7
2 インターネットを活用した広報	14.1	16.7	11.6	9.3	15.6	17.0	21.7	13.3	17.2	16.5	7.7
3 駅前や街頭、公共施設等でチラシやパンフレットなどを配布	14.5	18.0	11.2	18.0	12.9	13.1	13.0	8.6	17.2	15.3	17.5
4 ポスターの掲示や車内吊り	15.7	13.4	18.0	19.3	17.7	9.8	20.3	19.0	16.1	12.9	12.6
5 学校から子どもや親に周知	53.4	51.0	55.6	52.7	52.2	55.6	59.4	57.1	64.4	54.1	40.6
6 フォーラムやタウンミーティングなどイベントの開催	17.0	19.7	14.4	12.7	21.5	15.7	11.6	15.2	6.9	20.0	25.2
7 その他	4.7	7.1	2.4	6.0	2.2	6.5	0.0	5.7	3.4	2.4	8.4
8 わからない	1.0	1.3	0.8	0.7	0.0	2.6	0.0	1.9	1.1	0.0	1.4
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2 家庭について

問11 教育の基本は家庭教育ですが、近年、家庭の教育力が低下していると言われていています。子どもたちを教育していく中で、家庭の役割としてどのようなことが重要であると思いますか。

(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 親が責任を持ってしつけを行うこと	55.8	58.6	53.2	55.3	53.2	59.5	56.5	53.3	56.3	58.8	55.2
2 手伝いをさせて家庭での子どもの役割を自覚させること	28.2	24.3	32.0	28.7	30.6	24.8	31.9	25.7	23.0	23.5	34.3
3 子どもに規則的な生活習慣を身に付けさせること	51.9	49.0	54.8	53.3	52.2	50.3	42.0	51.4	48.3	47.1	62.2
4 家庭で団らん(だんらん)の時間を作ること	40.3	37.2	43.2	38.0	39.2	43.8	52.2	44.8	43.7	43.5	27.3
5 家族と一緒に趣味やスポーツをすること	12.7	17.2	8.4	14.0	16.7	6.5	4.3	16.2	17.2	10.6	12.6
6 その他	4.9	7.1	2.8	4.7	3.8	6.5	5.8	2.9	5.7	7.1	4.2
7 わからない	0.2	0.0	0.4	0.0	0.5	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

3 地域について

問12 子どもの教育には地域社会の役割が欠かせませんが、地域では、特にどのような取組が重要であると思いますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 地域の住民同士が、気軽にあいさつや会話をする事	62.6	58.2	66.8	62.7	60.8	64.7	52.2	65.7	60.9	62.4	66.4
2 地域の住民が、お祭りなど地域の行事に参加すること	26.8	27.2	26.4	28.0	28.0	24.2	31.9	27.6	29.9	25.9	22.4
3 地域の住民が、地域のボランティア活動に参加すること	21.1	25.5	16.8	20.7	19.4	23.5	18.8	12.4	20.7	25.9	25.9
4 地域の子どもの、地域の大人が働く姿を見せることや、職場の見学や体験ができる機会を与えること	42.3	39.3	45.2	38.0	41.9	47.1	46.4	47.6	42.5	36.5	39.9
5 年代の違う大人や子どもが交流できる機会を増やすこと	35.0	36.0	34.0	37.3	37.1	30.1	37.7	38.1	32.2	32.9	34.3
6 その他	2.2	3.3	1.2	2.0	1.6	3.3	2.9	0.0	3.4	3.5	2.1
7 わからない	0.6	0.8	0.4	1.3	0.5	0.0	0.0	1.0	0.0	1.2	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

4 学校について

問13 これからの学校に特に望むことは何ですか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 いじめや不登校のないこと	51.9	46.9	56.8	52.0	54.3	49.0	60.9	59.0	50.6	45.9	46.9
2 魅力ある授業や分かりやすい授業を行うこと	57.7	54.0	61.2	57.3	57.5	58.2	42.0	55.2	58.6	63.5	62.9
3 家庭や地域の意見が反映されること	11.0	13.8	8.4	7.3	15.1	9.8	10.1	10.5	10.3	12.9	11.2
4 文化やスポーツなどで特色のあること	11.2	13.4	9.2	12.7	11.3	9.8	10.1	14.3	4.6	17.6	9.8
5 社会に役立つ人材を育てること	36.6	36.4	36.8	38.7	33.3	38.6	33.3	30.5	40.2	34.1	42.0
6 国際社会に通用する外国語教育を充実すること	9.4	9.6	9.2	6.7	9.7	11.8	15.9	4.8	9.2	3.5	13.3
7 その他	9.6	12.6	6.8	10.7	8.1	10.5	11.6	6.7	12.6	9.4	9.1
8 わからない	0.6	0.4	0.8	1.3	0.0	0.7	1.4	1.0	0.0	1.2	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

5 不安定な状態にある若者について

問14 全国で、ニートは約60万人、フリーターは約180万人いると言われ、社会生活が不安定な状態にある若者の増加が問題となっています。このような現象をなくしていくためにはどのような教育が必要と思いますか。(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 学校において職場体験やインターンシップの機会を設け、仕事のやりがいや大切さを理解させること	49.5	44.8	54.0	50.0	50.0	48.4	49.3	43.8	43.7	56.5	53.1
2 ボランティア活動への参加を促すことなどにより、社会性を身につけさせること	34.8	34.3	35.2	34.7	36.0	33.3	29.0	32.4	29.9	37.6	40.6
3 いつでも学び直しができるようにすること	29.0	23.0	34.8	29.3	30.6	26.8	36.2	34.3	28.7	31.8	20.3
4 学校と地域の企業を橋渡しする仕組みをつくり、学校と地域の企業を密接に結びつけること	23.7	27.2	20.4	23.3	22.0	26.1	21.7	29.5	20.7	17.6	25.9
5 社会人が学校に来て、仕事のやりがいや大切さを子ども達に話すこと	20.2	23.8	16.8	17.3	19.9	23.5	24.6	15.2	19.5	15.3	25.2
6 職業学校を充実させること	15.5	14.6	16.4	16.0	15.6	15.0	18.8	15.2	16.1	12.9	15.4
7 その他	10.8	14.2	7.6	14.0	8.1	11.1	7.2	9.5	16.1	11.8	9.8
8 わからない	1.6	1.7	1.6	0.7	2.7	1.3	0.0	2.9	3.4	1.2	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

6 教育全般

問15 子ども達の将来のために、愛知県は、どのような教育分野に力を入れていくべきだと思いますか。

(回答は2つ以内)

	全体	男性	女性	名古屋	尾張	三河	20代	30代	40代	50代	60代 以上
総数	489	239	250	150	186	153	69	105	87	85	143
1 道徳教育	58.5	56.9	60.0	57.3	62.4	54.9	55.1	60.0	57.5	51.8	63.6
2 学力の育成	28.4	24.3	32.4	29.3	30.1	25.5	33.3	25.7	37.9	21.2	26.6
3 キャリア教育	37.6	38.9	36.4	38.0	34.4	41.2	34.8	31.4	27.6	48.2	43.4
4 環境教育	17.0	19.2	14.8	14.7	17.2	19.0	11.6	20.0	19.5	16.5	16.1
5 文化芸術教育	6.3	7.1	5.6	7.3	5.9	5.9	4.3	5.7	8.0	9.4	4.9
6 国際教育	16.0	17.6	14.4	18.7	12.9	17.0	20.3	8.6	23.0	14.1	16.1
7 情報教育	5.7	5.4	6.0	4.7	5.9	6.5	7.2	7.6	3.4	5.9	4.9
8 産業教育	6.5	9.2	4.0	6.7	5.9	7.2	7.2	10.5	3.4	4.7	6.3
9 特別支援教育	10.8	7.9	13.6	7.3	14.0	10.5	8.7	13.3	9.2	15.3	8.4
10 その他	3.7	4.2	3.2	6.0	2.2	3.3	4.3	3.8	4.6	2.4	3.5
11 わからない	1.2	0.8	1.6	1.3	1.1	1.3	1.4	1.9	0.0	2.4	0.7
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

平成21年度第3回県政モニターアンケート報告書

「あいちの健康福祉」
「あいちの教育の推進」
平成21年11月発行
愛知県知事政策局広報広聴課
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話(052)954-6168(ダイヤルイン)

この冊子は、再生紙を使用しています。

